

日本語別科 1クラス 全体目標

クラス名	1クラス (Level 1 上級)
クラスの目標	日本語に焦点を置いた日本語科目の授業の他、日本語を道具として様々な内容に焦点をおいた授業を受けることによって、日本語能力の向上を目指す。そのために1クラスでは多様な学部の授業を聴講し日本人といっしょに授業参加をする機会が設けられている。
学習する文型項目、語彙、漢字数	文型・文法項目 : N1相当の文型・文法事項、語彙数、漢字数

日本語別科 2クラス 全体目標

クラス名	2クラス (Level 2 上級)
クラスの目標	初級・中級で学んだ文法・語彙などの知識を組み立てて運用力を高める。
学習する文型項目・語彙・漢字数	N2合格レベル 漢字1000字～2000字、語彙6000～10000

クラス名	時事日本語研究 I A																																																																								
対象	1クラス、2クラス (Level 1, 2)																																																																								
講師名	北村 よう																																																																								
クラスの目標・目的	ニュースで使われることばを通して日本語の語彙(特に漢字語彙)を増やし、時事日本語に特有の表現について学ぶ。題材として扱うのは、主に新聞記事とインターネット上のニュースである。毎回の宿題によって、ポイントをとらえ、自分のことばで内容をまとめられる力を身につける。																																																																								
スケジュール	<table border="0"> <thead> <tr> <th>日付</th> <th></th> <th>小テスト</th> <th>宿題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月7日</td> <td>ガイダンス・記事1</td> <td>漢字実力テスト</td> <td>記事1</td> </tr> <tr> <td>4月14日</td> <td>記事2導入・記事1読解</td> <td></td> <td>記事2</td> </tr> <tr> <td>4月21日</td> <td>記事3導入・記事2読解</td> <td>記事1漢字語彙</td> <td>記事3</td> </tr> <tr> <td>4月28日</td> <td>記事4導入・記事3読解</td> <td>記事2漢字語彙</td> <td>記事4</td> </tr> <tr> <td>5月5日</td> <td>こどもの日</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5月12日</td> <td>記事5導入・記事4読解</td> <td>記事3漢字語彙</td> <td>記事5</td> </tr> <tr> <td>5月19日</td> <td>記事6導入・記事5読解</td> <td>記事4漢字語彙</td> <td>記事6</td> </tr> <tr> <td>5月26日</td> <td>記事6読解・復習</td> <td>記事5漢字語彙</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>6月2日</td> <td>中間テスト(記事1～5))</td> <td></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>6月9日</td> <td>記事7導入・中間テストFB</td> <td>記事6漢字語彙</td> <td>記事7</td> </tr> <tr> <td>6月16日</td> <td>記事8導入・記事7読解</td> <td>中間テスト漢字語彙</td> <td>記事8</td> </tr> <tr> <td>6月23日</td> <td>記事9導入・記事8読解</td> <td>記事7漢字語彙</td> <td>記事9</td> </tr> <tr> <td>6月30日</td> <td>記事10導入・記事9読解</td> <td>記事8漢字語彙</td> <td>記事10</td> </tr> <tr> <td>7月7日</td> <td>記事11導入・記事10読解</td> <td>記事9漢字語彙</td> <td>記事11</td> </tr> <tr> <td>7月14日</td> <td>記事11読解・復習</td> <td>記事10漢字語彙</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>7月21日</td> <td>期末テスト(記事6～11・漢字6～10+中間テスト)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7月28日</td> <td>期末テストフィードバック</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	日付		小テスト	宿題	4月7日	ガイダンス・記事1	漢字実力テスト	記事1	4月14日	記事2導入・記事1読解		記事2	4月21日	記事3導入・記事2読解	記事1漢字語彙	記事3	4月28日	記事4導入・記事3読解	記事2漢字語彙	記事4	5月5日	こどもの日			5月12日	記事5導入・記事4読解	記事3漢字語彙	記事5	5月19日	記事6導入・記事5読解	記事4漢字語彙	記事6	5月26日	記事6読解・復習	記事5漢字語彙	なし	6月2日	中間テスト(記事1～5))		なし	6月9日	記事7導入・中間テストFB	記事6漢字語彙	記事7	6月16日	記事8導入・記事7読解	中間テスト漢字語彙	記事8	6月23日	記事9導入・記事8読解	記事7漢字語彙	記事9	6月30日	記事10導入・記事9読解	記事8漢字語彙	記事10	7月7日	記事11導入・記事10読解	記事9漢字語彙	記事11	7月14日	記事11読解・復習	記事10漢字語彙	なし	7月21日	期末テスト(記事6～11・漢字6～10+中間テスト)			7月28日	期末テストフィードバック		
日付		小テスト	宿題																																																																						
4月7日	ガイダンス・記事1	漢字実力テスト	記事1																																																																						
4月14日	記事2導入・記事1読解		記事2																																																																						
4月21日	記事3導入・記事2読解	記事1漢字語彙	記事3																																																																						
4月28日	記事4導入・記事3読解	記事2漢字語彙	記事4																																																																						
5月5日	こどもの日																																																																								
5月12日	記事5導入・記事4読解	記事3漢字語彙	記事5																																																																						
5月19日	記事6導入・記事5読解	記事4漢字語彙	記事6																																																																						
5月26日	記事6読解・復習	記事5漢字語彙	なし																																																																						
6月2日	中間テスト(記事1～5))		なし																																																																						
6月9日	記事7導入・中間テストFB	記事6漢字語彙	記事7																																																																						
6月16日	記事8導入・記事7読解	中間テスト漢字語彙	記事8																																																																						
6月23日	記事9導入・記事8読解	記事7漢字語彙	記事9																																																																						
6月30日	記事10導入・記事9読解	記事8漢字語彙	記事10																																																																						
7月7日	記事11導入・記事10読解	記事9漢字語彙	記事11																																																																						
7月14日	記事11読解・復習	記事10漢字語彙	なし																																																																						
7月21日	期末テスト(記事6～11・漢字6～10+中間テスト)																																																																								
7月28日	期末テストフィードバック																																																																								
方法と種類	<p>1回の授業の内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前の週に学習した漢字や語彙、表現についての簡単な確認テスト 2. 新しい記事の見出しの穴埋め・背景説明(記事2つ～3つ) 3. 前の週に配った新聞記事の読解練習 4. (時間があれば)内容に関するディスカッション <p>配られた新聞記事を読み、質問の答えを書いてくることを宿題にする。</p>																																																																								
教材	プリントで配布する。																																																																								
成績評価の基準および方法	<p>平常点(授業への参加度・小テスト・宿題)……10%</p> <p>中間試験……40%</p> <p>期末試験……50%</p>																																																																								
留意点	※ この授業は2クラスとの合同授業です																																																																								

クラス名	日本語A
対象	2クラス (Level 2)
講師名	増倉 洋子
クラスの目標	<p>専門的、あるいは時事的な内容について理解し、要約したり意見を述べたり、ディスカッションができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の言語の4技能をバランスよく伸ばし、コミュニケーション能力を身につけます。日本語でのコミュニケーションに必要な幅広い知識や情報を得るために一般常識やニュース、伝統文化などを題材に日本語を学びます。N2合格レベルの日本語力を見につけることを目標とします。</p> <p>文型・文法項目：N2の文型・文法事項、漢字1500、語彙5000</p>
スケジュール 方法と種類	
教材	「総合日本語」「コンテンツとマルチメディアで学ぶ日本語 上級へのとびら」 その他は科目によって異なります。詳細はシラバス集を参照してください。
成績評価の基準および方法	<p>5)の時間割にある「日本語」は必修です。「日本語」以外の科目から9単位選択します。各科目の点数を平均して評価します。</p> <p>※ 文法＋読解＋聴解＋漢字語彙＋作文＋話し方の平均点を以下の基準で評価し、日本語の成績を出します。 S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)</p>
留意点	

読解	
クラスの目標	日本語の文章を速く、たくさん読めるようになる。
スケジュール	<p>第2回～第5回 ショートショート 第6回 昔話 第7回～第14回 古畑任三郎ノベライゼーションより ※ 第1回は担当者が違う</p>
方法と種類	キーワードの意味を確認し、これから読む物を導入。うちで読んで質問シートに答えを記入し、教室で確認する。
教材	『ショートショートの花束』より抜粋「ねずみのすもう」『古畑任三郎2』より「中川外科部長のコート」
成績評価の基準および方法	授業への参加度10%、期末試験90%
留意点	日本語を読む楽しみを味わう

口頭表現	
クラスの目標	下記(かき)の学習到達(とうたつ)の5つの目標が達成(たっせい)できるようになることです。
スケジュール	
方法と種類	<p>話す事について理解し、苦手意識(にがていしき)がなくなるような授業をします。 気軽に話せることから少しずつ難度(なんど)を上げた演習をします。 具体的には「クラスメートとの対話」と「独話(どくわ)」、ミニディベート、ミニドラマ、台本(だいほん)のあるドラマを体験します。そして、クラス全体で一つのドラマを作り、他のクラスの皆に見てもらいます。話すテーマは皆さんにとって身近なものです。発表したり、議論(ぎろん)したり、演劇(えんげき)をすることによって、日本語らしい表現を知ったり、緊張(きんちやう)しない日本語が話せるようになることを体験してください。 実際にやってみる事で難しさや面白さが実感でき、気がつくと言葉が楽になる自分に気づくでしょう。</p>
教材	授業で配布(はいふ)します。
成績評価の基準および方法	スピーチ:20点、ミニディベート:20点、シナリオのあるドラマ:20点、インプロ:20点 チームワーク:20点、計 100点
留意点	

聴解	
クラスの目標	ニュースや報道番組を聴いて内容を理解し、発表する。漢字語句の知識を深める。
スケジュール	1週間1回、90分の授業と課題(毎日ニュースを聞いて関心のあるニュースを見つける・漢字語句を覚える)
方法と種類	1週間に90分の授業でその週のニュース一つを取りあげ、深く正確に聞く指導を行う。課題として1週間のニュースを聞き、特に関心のあるニュースについて発表する。
教材	毎週の生のテレビニュース
成績評価の基準および方法	毎週行う漢字テスト(20%)、毎週の課題発表(30%)、最終のリスニングテスト(50%)の成績で評価する。
留意点	社会・文化的知識を高め、語彙を増やし、自分の意見を発表できる力を身につける。

クラス名	文章表現 I A
対象	2クラス (Level 2)
講師名	増倉 洋子
クラスの目標	<p>上級Ⅱクラスは、日本語能力試験N2レベルに相当するクラスである。約800時間前後の学習を経て、抽象語彙及び、それを使った文章表現はかなり正確にできるはず、であると考えられるが、テストの意見文一つとっても、日本語としてかなり不正確な部分が多い。また、そこで使用されている語彙についても、初中級レベルのものが多用され、中級後期で、獲得されていると思われる語彙はほとんど使用されていない。つまり、獲得されているはずの語彙を、アウトプットすることができていない。そこで、「Ⅱクラス文章表現」では語彙・文章表現のアウトプットに関して以下の二つのことを目的にする。</p> <p>①中上級の語彙が多く使用できるようにする ②目的に応じた文章が書ける。</p>
スケジュール	<p>スケジュールに関しては、授業の1か月以内の「天声人語」+『留学生のための論理的な文章表現の書き方』改訂版:スリーエーネットワークの課の順番に従って進める。</p>
方法と種類	<p>①に関しては、「朝日新聞デジタル」から、最新のもの・学生の興味を引きそうなものを選び以下のような方法で学習したい。</p> <p>例 (天声人語)シェアするという文化 Aシェアハウスという言葉を知ったのは、4.5年前だろうか。住んだことのある女性に聞いた。「舌を鳴らす音が覚めるんです。一戸建てに女性十数人。トイレや洗面所は一緒に使って、朝は早い人が有利だ。ほかの人より遅くなった人は悔(く)や(し)がる▼共同生活は大変だと思ったものだ。しかし、その後の広がりには本当にびっくりする</p> <p>B 舌打ち 早い者勝ち 後れを取る 耳にする 共用 目をみはる C答 シェアハウスという言葉を知ったのは4.5年前だろうか。住んだことのある女性に聞いた。「舌打ちの音で目が覚めるんです」。一戸建てに女性十数人。トイレや洗面は共用で、朝は早い者勝ちだ。後れを取った人は悔(く)や(し)がる▼共同生活は大変だと思ったものだ。しかし、その後の広がりには目をみはる。簡単な語彙の文Aを読んで、Bから語彙を選びCの文に書き直すという作業だ。これを平易な文から難易度の高い文に順に練習してみようと思う。(語彙テストも何らかの形で毎回行いたい。)また、この記事に対して様々な意見がでて、それを文章化するのも面白いと思う。</p> <p>②『留学生のための論理的な文章表現の書き方』改訂版 スリーエーネットワークからプリントアウトしたもののレポート指導の前段階として、ほぼ全冊の内容を学習する。「普通体」「自他」「『は』と『が』」「名詞化」等作文に重要ないくつかの文法事項を先行して教え、その後レポートを書くための論理展開や表現のモデルを学習しながら、それを参考に各課の作文課題に取り組ませる。取り組むべきテーマは「引用の仕方」「段落」「歴史的な経過の説明」「分類」「定義」「比較対象」「因果関係」「要約」で、授業の方法としては、授業中に各テーマの表現モデルを学習し、そのモデルに従って作文を書くことを次週までの宿題とする。宿題の採点方法としては、言語面の間違ひのマイナスは小さく、構成等(「です・ます」体との混同、段落分け、序論・本論・結論の存在、論の展開の一貫性)に関して厳しく減点する。</p>
教材	<p>「朝日新聞デジタル版から」『留学生のための論理的な文章表現の書き方』改訂版 スリーエーネットワークからプリントアウトしたもの</p>
成績評価の基準および方法	<p>評価: 中間テスト(天声人語の問題+「比較対象・600字作文」30% 期末(天声人語の問題+定義作文800字)30% 小テスト+6トピック分の作文20% 出席20%</p>
留意点	

対象	1クラス、2クラス(Level 1,2)
講師名	山田正志
クラスの目標・目的	現代日本の政治にかかわる基本的な概念・用語、および知識を習得する。
スケジュール	
方法と種類	<p>1. 内容 日本国憲法の諸問題、国会、国会議員、内閣、行政組織、選挙、政党、政権交代、</p> <p>2. 方法 講義形式による</p> <p>★ 学部進学クラスとの合同</p>
教材	<p>1. 東海大学別科テキスト『日本の社会・政治・経済』のうち、「政治」編</p> <p>2. その他、必要に応じて、新聞記事などを使用する</p>
成績評価の基準および方法	<p>定期試験および出席・授業態度 試験70%、出席等30%</p>
留意点	

クラス名	文章購読A
対象	2クラス (Level 2)
講師名	北村よう
クラスの目標	日本語の文章を速く、たくさん読めるようになる。
スケジュール	第2回～第5回 ショートショート 第6回 昔話 第7回～第14回 古畑任三郎ノベライゼーションより ※ 第1回は担当者が違う
方法と種類	キーワードの意味を確認し、これから読む物を導入。うちで読んで質問シートに答えを記入し、教室で確認する。
教材	『ショートショートの花束』より抜粋「ねずみのすもう」『古畑任三郎2』より「中川外科部長のコート」
成績評価の基準および方法	授業への参加度10%、期末試験90%
留意点	日本語を読む楽しみを味わう

クラス名	音声表現IA
対象	2クラス (Level 2)
講師名	宮城 幸枝
クラスの目標	私たちは音声によって、文の構造や、気持ち、感情、意図などの様々な情報を伝えています。音声表現が上手にできないと、聞き手に理解してもらえず、誤解されてしまうこともあります。この授業では音声言語としての日本語に焦点を当て、音声によって上手にコミュニケーションを行う方法を指導します。同時に話し言葉特有の表現形式についても学びます。
スケジュール	毎週1回の日本語の音声言語についての講義と発音指導と会話・モノローグの自宅学習課題。
方法と種類	<p>1. まず、最初にリズム、アクセントやイントネーションなど、日本語の音声表現システムのルールについて学びます。そして、以下のようないろいろな音声コミュニケーションの素材を教材として、表現の仕方を学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①モノローグ・・・ チャンクの区切り方、イントネーションの付け方 ②スピーチ、意見発表・・・ 声の強弱、ポーズの長さ、位置 ③会話・・・声質、丁寧さの表現、文末イントネーション、強度強調の方法 <p>2. 上記の表現を学ぶ中で、個々の発音を文全体のイントネーション、リズムといった マクロな視点から個々の発音について指導します。</p> <p>3. 話し言葉に特有な表現について学びます。</p> <p>以上をオーバーラッピング、リピーティング、シャドーイング等を行いながら学びます。会話やモノローグの自然な音声表現ができるようにトレーニングを課題とし、毎回成果を録音し、提出してもらいます。この授業の成果を確認するため、最終課題として自己紹介を行います。</p>
教材	<ul style="list-style-type: none"> ①『Shadowing 日本語を話そう!』 ②中級日本語聴解教材『毎日の聞きとり50日 上・下』 ③ドラマ・アニメ・トーク番組(録音) ④その他プリント教材
成績評価の基準および方法	毎回授業時に行うテスト、最終発表によって、評価する。
留意点	

クラス名	日中比較研究A
対象	1クラス、2クラス (Level 1&2)
講師名	宮城 幸枝・森山 美紀子
クラスの目標・目的	この授業では、主に「話す、聞く、書く」力を身につけることを目標とします。到達目標は以下の通りです。より具体的には「授業スケジュール」をご覧ください。「結果」欄に、S～Eの評価を記入して客観的に自分の実力を確認し、学習方法を点検・改善しましょう。
スケジュール	<p>第1回 授業説明: 授業の目的とルール・アンケート・要望聞き取り、日本語の会話想定練習(使える表現の復習)</p> <p>第2回 前半: 授業の目的とルール説明 後半: メンバー顔合わせ、グループワークで自己紹介準備</p> <p>第3回 前半: 自己紹介発表と質疑応答 後半: 次回のグループワークの準備</p> <p>第4回 グループワーク①-1 準備「日・中台の歌とゲームの紹介」 前半: 日・中台のグループで話し合い、作業 後半: (学習言語でも説明できるようにするため)日・中台混成のグループになり、学習言語発表の準備</p> <p>第5回 グループワーク①-2 本番 歌とゲームの紹介</p> <p>第6回 グループワーク②-1 準備「グループ会話」テーマ決め グループに分かれ、準備</p> <p>第7回 グループワーク②-2 本番 前半: グループ会話・質問の練習 後半: メンバーをチェンジしグループ会話・質問</p> <p>第8回 前半: グループメンバーの内容紹介の準備 後半: グループメンバーの内容を全員の前で学習言語で紹介</p> <p>第9回 前半: これまでの授業の振り返りを行う 学習言語チェック 後半: グループ会話練習</p> <p>第10回 グループ発表準備(1) 全体でのテーマ選定、グループ決め、準備開始</p> <p>第11回 グループ発表準備(2)</p> <p>第12回 グループ発表準備(3)</p> <p>第13回 グループ発表準備(4)</p> <p>第14回 グループ発表 リハーサル・修正</p> <p>第15回 グループ発表 本番 グループ発表に対し採点・評価 自己評価・振り返り用紙配布</p>
方法と種類	<p>この授業は、別科日本語研修課程の中国・台湾からの留学生と中国語を学ぶ日本人学生が合同授業を通じて、生きた日本語と中国語会話を学ぶ授業です。ペアワークやグループワーク、発表などを通じ、互いの学習言語を学び合うと同時に、中国・台湾・日本の文化・風俗習慣などへの理解を深めます。</p> <p>この授業の対象者は、日本人との交流に意欲的な学生です。授業を通じ、日本人とのコミュニケーションが可能な会話力を身につけることを目標とします。授業では、自己紹介表現を復習することから始め、日本と中国の文化比較などに関するテーマも扱います。毎回の授業課題をこなしていくことにより、日本語で自らの情報を積極的に発信し、より多くの情報を受信できる日本語運用能力と、既定の目標レベルに到達するための挑み力(プランニング力)や成し遂げ力(実行と継続力)を養っていきます。</p>
教材	<p>学習到達度チェック表 準備作業への取り組み方、発表時のパフォーマンス、中間試験・期末試験がチェック対象。 以下の項目を{ S ほぼ完璧に A 7割以上 B 半分以上 C どうか }できる、E できない でチェック。</p> <p>到達目標 結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 準備した中国語の文章を辞書を使い日本語に訳すことができる 2 日本人に日本語で簡単な質問ができ、日本人の回答を聞き取ることができる 3 日本人の日本語による質問を聞き取ることができ、簡単な回答ができる 4 準備すれば自分の言いたいことを正確な日本語で発話することができる 5 事前に原稿を暗記し、授業の発表時に聞き取りやすい日本語でスピーチできる 6 日本人に中国語の語彙や文法、正確な発音やイントネーションを上手く教えることができる 7 教室活動の準備時間や授業時間以外にも、言語を問わず自ら積極的に留学生に話しかけ、日本語或いは中国語で情報交換をする意欲が見られる <p>成績評価は全体の3分の2の出席があることを前提に行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習到達度チェック表の1～6の項目について、準備作業への取り組み方、課題のパフォーマンスに基づき、{ S ほぼ完璧に A 7割以上 B 半分以上 C どうか }できる、E できない をもとに点数化(100点満点)に換算し、平均点を出す。 2. 欠席は2点、遅刻は1点、授業中に注意を受けた等問題があった場合は1点とし、1の平均点からマイナスする。課題を実施していない、或いは提出していない場合も減点する。 3. 1と2の合計点に基づき、S(90点以上)、A(80～89点)、B(70～79点)、C(60～69点)、E(59点以下)で成績評価を行う。途中から授業に出席しなくなった場合などは/とする。
留意点	<ol style="list-style-type: none"> ① 欠席せず、学習したことは必ず復習しましょう。 ② 授業には必ず日本語辞典を携行してください。 ③ この授業は日本人との共同作業が主体となるので、授業には遅刻、早退、無断欠席をしないようにしてください。やむを得ず欠席する場合は、事前に教員もしくはクラスメートに連絡してください。(担当教員メールアドレス: meijizi@nte.biglobe.ne.jp) ④ 各自の学習状況について、授業スケジュール表にある「自己チェック」「振り返りチェック」と、上の「学習到達度チェック」で主観的・客観的に確認しましょう。到達度が低い場合は、予習・復習・授業でのノートの取り方などに問題がある可能性がありますので、適宜担当教員に相談し、自分の学習方法を改善していきましょう。

クラス名	プロジェクト入門A
対象	1クラス、2クラス (Level 1,2)
講師名	結城健太郎
クラスの目標・目的	日本人と一緒に計画・発表する力を身につけます。旅行を計画しながら、日本の地理・社会について知り、日本人の考え方を学びます。日本語で話し合い、意見を言うことができるようになります。
スケジュール	第1回: グループを作り、自己紹介をします。 第2回: 旅行する人 第3回: 旅行の目的 第4回: 旅行の目的 第5回: 旅行に必要なもの 第6回: プレゼンテーション 第7回: 旅行する場所 第8回: 旅行する場所 第9回: 旅行の日程 第10回: 旅行の日程 第11回: プレゼンテーション 第12回: 再検討 第13回: トラブルについて 第14回: トラブルについて 第15回: プレゼンテーション
方法と種類	日本人の学生とグループを作り、外国人向けの日本旅行を計画します。 (1)旅行する人、目的を考えます。 (2)旅行に必要なもの(お金、ビザなど)を考えます。 (3)旅行する場所・方法・日程を考えます。 (4)トラブル(事故、病気)について考えます。 (1)から(4)を日本語で話し合い、分担して調べます。レポートを書き、パワーポイントで発表します。
教材	教科書はありません。プリントを配ります。
成績評価の基準および方法	出席と参加の評価が50%、レポートとプレゼンテーションの評価が50%です。
留意点	

クラス名	口頭表現A
対象	1クラス、2クラス (Level 1, 2)
講師名	斉木ゆかり
クラスの目標・目的	下記(かき)の学習到達(とうたつ)の5つの目標が達成(たっせい)できるようになることです。
スケジュール	
方法と種類	<p>話す事について理解し、苦手意識(にがていしき)がなくなるような授業をします。 気軽に話せることから少しずつ難度(なんど)を上げた演習をします。 具体的には「クラスメートとの対話」と「独話(どくわ)」、ミニディベート、ミニドラマ、台本(だいほん)のあるドラマを体験します。そして、クラス全体で一つのドラマを作り、他のクラスの皆に見てもらいます。話すテーマは皆さんにとって身近なものです。発表したり、議論(ぎろん)したり、演劇(えんげき)をすることによって、日本語らしい表現を知ったり、緊張(きんちょう)しないで日本語が話せるようになることを体験してください。</p> <p>実際にやってみる事で難しさや面白さが実感でき、気がつくと話すことが楽になる自分に気づくでしょう。</p>
教材	授業で配布(はいふ)します。
成績評価の基準および方法	スピーチ:20点、ミニディベート:20点、シナリオのあるドラマ:20点、インプロ:20点 チームワーク:20点、計 100点
留意点	

クラス名	映像と文化
対象	2クラス (Level 2)
講師名	宮城幸枝
クラスの目標・目的	① ニュースを聞いて、現在の日本の社会・文化事情を知る。 ② ニュースの談話の特徴を知り、聞いて理解する力をつける。 ③ 文のリピートやシャドーイングを行い、日本語の語順に慣れ、正確な発音を身につける。 ④ 漢字語句の知識を増やす。
スケジュール	
方法と種類	① 1週間のニュースを聞いてきて、気になったニュースを発表しあう。意見を交換する。 ② 新しいニュースの聞き取り。聞き方を学ぶ。 ③ 新しいニュースの書き取り。自分の弱点を発見する。
教材	
成績評価の基準および方法	出席点20%、ニュースの発表の内容10%、宿題の提出20%、漢字テスト10% 期末テスト40% 期末テストの内容は、授業で聞いたニュースの内容を理解したかどうか、漢字語句を正確に読めるかどうか、新しいニュースを聞いて理解できるかについてテストする。
留意点	

クラス名	日独比較研究 A
対象	1クラス、2クラス (Level 1, 2)
講師名	佐原 雅通
クラスの目標・目的	<p>①日本語の正確な理解力と日本語の表現能力を高めることに主眼を置く。教材として、ドイツ語のインターネットからニュース記事を使用する。 内容的には、政治、経済、社会、技術、医学、文化等の分野から、日独が共通して直面するアクチュアルなテーマを扱う。日独の現代事情と並んで、日独の文化的な背景の差異についても考察する。</p> <p>②日本の文学作品もテキストとして扱う。文学作品の日本語の微妙なニュアンスを正確に理解することにも重点を置く。</p>
スケジュール	
方法と種類	<p>①日本語訳の練習 (1)毎週、ドイツ語のインターネットからニュース記事を選んでプリント配布。 (2)単語の日独対照リストを作成。 (3)日本語の単語の読み方、意味を確認。 (4)順番に逐語訳の練習をする。 宿題: 毎週、日独対照リストを参考に、ドイツ語のニュース記事を日本語に訳して提出する。</p> <p>②ドイツ語訳の練習 (1)村上春樹の文学作品とドイツ語の翻訳をコピーして配布する。 (2)村上春樹の文学作品を正確に理解し、ドイツ語の翻訳と比較する。 (3)翻訳の正誤を検討する。 宿題: 毎週、担当者を決める。担当者は授業で検討したドイツ語訳を翌週に提出する。</p>
教材	<p>①ドイツ語 → 日本語 : インターネットサイトのドイツ語ニュース。 ②日本語 → ドイツ語 : 村上春樹の短編作品。 「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」 「レーダーホーゼン」</p>
成績評価の基準および方法	学期末に提出するレポートの成績、①、②に関連した宿題の内容、そして平常点を総合して成績評価を行なう。
留意点	

クラス名	日韓比較研究ⅡA
対象	1クラス、2クラス (Level 1, 2)
講師名	阿部 由美子
クラスの目標・目的	<p>1)文化的・言語習得上の視点</p> <p>韓国に関心を持つ日本人学生と日本語・韓国語を媒介として共同で討論や発表などを行い、日本の社会や文化を韓国と比較しつつ学ぶ姿勢を身につける。また、言語学習にもそれを活かし、母語としての韓国語と学習言語としての韓国語の違いを意識し、パートナーとなった日本人学生の韓国語能力の向上に主体的に取り組む。</p> <p>2)交流の視点</p> <p>同年代の学生とのコミュニケーションを通じて日本語による発信能力を高め、同時に現代的な口語に接する機会とする。</p>
スケジュール	
方法と種類	<p>授業は学部の「コリア語会話中級」履修者との合同で、毎回グループ活動で行う。</p> <p><前半>ディスカッション(韓国語と日本語のセッションに分けて行う)</p> <p>毎回、日韓双方の教員が提供する日本語・韓国語の会話資料をもとに、あるテーマでグループ討論を行う。その中で互いの母語について教えあう。また、毎回、授業の感想や新たに学習したこと、疑問点などを日本語で評価シートにまとめて提出、教員との意思疎通を図る。</p> <p><後半>プレゼンテーション</p> <p>グループごとに主題を決めて日韓文化比較を行い、PPTを使ってクラスで発表する。その準備の過程で互いに母語表現を教えあい、発音指導も充分行う。発表内容については双方の言語でハンドアウトを作成する。さらに発表後、どのように準備したか、各自の発表内容などについて個人報告書を作成して提出する。</p>
教材	特に指定しない。毎回教員が作成したプリント教材使用。
成績評価の基準および方法	<p>出席点:30%・前半の報告書20%・プレゼンテーション30%・プレゼンの報告書20%</p> <p>授業中の活動が主となるので、出席と授業中の参加態度を重視する。授業・交流活動への貢献が重要で、①発展的な討論になるようにどのような意見を出したか、②自分の発表だけでなくグループの発表にどれだけ協力したか、③日本人学生の韓国語指導をどのように行ったか、なども評価シートや個人報告書を通じて評価する。</p>
留意点	教員の講義を受動的に学ぶ授業ではないので、能動的に授業に参加し、よりよい授業・時間にしようという積極的な姿勢が求められる。討論が停滞すれば自らの発言で活性化を図り、またグループ全体の協働と発展という視点を持って、活動に活発に参加してほしい。

クラス名	日露比較研究A
対象	1クラス、2クラス (Level 1, 2)
講師名	近藤 喜重郎
クラスの目標・目的	(1) 日本語の理解度と表現力を高めることに主眼を置く。 (2) 日本とロシアの暮らし・文化についてテキストを読み、また発表することを通して互いの文化を比較し、その類似について理解を深める。
スケジュール	
方法と種類	(1) 前半と後半とで内容と方法が分かれる。 (2) 前半では上記プリントを使用して露文和訳を行う。毎回、一定量のロシア語テキストを日本語に訳すことが宿題として課される。宿題は次の授業で発表され、誤りがある場合にはそれが正される。 (3) 前半の途中と最後に小試験を行う。試験内容は、授業で使ったテキストの範囲内での露文和訳である。 (4) 後半では、10分間の日本語によるプレゼンテーションを行う。毎回、2名の学生に日本語とロシア語によるプレゼンテーションの準備が宿題として課される。宿題は次の授業で発表される(日本語のみ)。発表者以外の学生はそれを聞き、その評価を日本語とロシア語で書いて発表する。プレゼンテーションの原稿と評価の用紙は授業後に提出され、日本語に誤りがある場合には、それが正されて次の授業で返却される。
教材	(1) 授業プリントを用いる (2) 授業プリントは、日本とロシアの暮らし・文化を紹介する学生向けロシア語教材、外国人のためのロシア語検定 試験(B2-C1レベル)の読解問題、インターネットサイトの記事から作成する。 <教材として使用する文献> ・ 佐藤靖彦『ロシア語作文・日本の四季——和文露訳の試み』新読書社 ・ Теремова Р.М., Гаврилова В.Л. Актуальный разговор: чем живет человек: Учебное пособие по русскому языку для иностранцев. СПб. «Коста», 2005. ・ Учебное-тренировочные тесты по русскому языку как иностранному. Выпуск 2. Чтение: учебное пособие / под общ. ред. М.Э. Парецкой. - 4-е изд. СПб. «Златоуст», 2002. ・ その他ロシアで出版されたロシア語教科書およびインターネットサイトの記事など
成績評価の基準および方法	(1) 平常点(授業態度、出席状況など)20% (2) 課題30%(前半の翻訳10%、後半のプレゼンテーション10%、その評価10%) (3) 小試験20% (4) 期末試験30%
留意点	授業は日本語で行う。

クラス名	日本の経済事情A①
対象	1クラス (Level 1)
講師名	山田正志
クラスの目標・目的	現代日本の経済にかかわる用語・課題・事情について把握し、理解を深めること
スケジュール	
方法と種類	<p>1. 内容 日本経済の軌跡、日本の産業、政府と経済、金融と財政、バブル経済と崩壊、リーマンショックと日本経済、その他</p> <p>2. 方法 講義形式を主とする。</p> <p>★ 学部進学クラスとの合同</p>
教材	1. 東海大学別科テキスト『日本の社会・政治・経済』のうち、「経済」編
成績評価の基準および方法	<p>定期試験および出席・授業態度 試験70%、出席等30% (定期試験はレポートによる)</p>
留意点	

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	時事日本語研究 I A																																																																								
対象	1クラス、2クラス (Level 1, 2)																																																																								
講師名	北村 よう																																																																								
クラスの目標・目的	ニュースで使われることばを通して日本語の語彙(特に漢字語彙)を増やし、時事日本語に特有の表現について学ぶ。題材として扱うのは、主に新聞記事とインターネット上のニュースである。毎回の宿題によって、ポイントをとらえ、自分のことばで内容をまとめられる力を身につける。																																																																								
スケジュール	<table border="0"> <thead> <tr> <th>日付</th> <th></th> <th>小テスト</th> <th>宿題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月7日</td> <td>ガイダンス・記事1</td> <td>漢字実力テスト</td> <td>記事1</td> </tr> <tr> <td>4月14日</td> <td>記事2導入・記事1読解</td> <td></td> <td>記事2</td> </tr> <tr> <td>4月21日</td> <td>記事3導入・記事2読解</td> <td>記事1漢字語彙</td> <td>記事3</td> </tr> <tr> <td>4月28日</td> <td>記事4導入・記事3読解</td> <td>記事2漢字語彙</td> <td>記事4</td> </tr> <tr> <td>5月5日</td> <td>こどもの日</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5月12日</td> <td>記事5導入・記事4読解</td> <td>記事3漢字語彙</td> <td>記事5</td> </tr> <tr> <td>5月19日</td> <td>記事6導入・記事5読解</td> <td>記事4漢字語彙</td> <td>記事6</td> </tr> <tr> <td>5月26日</td> <td>記事6読解・復習</td> <td>記事5漢字語彙</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>6月2日</td> <td>中間テスト(記事1~5)</td> <td></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>6月9日</td> <td>記事7導入・中間テストFB</td> <td>記事6漢字語彙</td> <td>記事7</td> </tr> <tr> <td>6月16日</td> <td>記事8導入・記事7読解</td> <td>中間テスト漢字語彙</td> <td>記事8</td> </tr> <tr> <td>6月23日</td> <td>記事9導入・記事8読解</td> <td>記事7漢字語彙</td> <td>記事9</td> </tr> <tr> <td>6月30日</td> <td>記事10導入・記事9読解</td> <td>記事8漢字語彙</td> <td>記事10</td> </tr> <tr> <td>7月7日</td> <td>記事11導入・記事10読解</td> <td>記事9漢字語彙</td> <td>記事11</td> </tr> <tr> <td>7月14日</td> <td>記事11読解・復習</td> <td>記事10漢字語彙</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>7月21日</td> <td>期末テスト(記事6~11・漢字6~10+中間テスト)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7月28日</td> <td>期末テストフィードバック</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	日付		小テスト	宿題	4月7日	ガイダンス・記事1	漢字実力テスト	記事1	4月14日	記事2導入・記事1読解		記事2	4月21日	記事3導入・記事2読解	記事1漢字語彙	記事3	4月28日	記事4導入・記事3読解	記事2漢字語彙	記事4	5月5日	こどもの日			5月12日	記事5導入・記事4読解	記事3漢字語彙	記事5	5月19日	記事6導入・記事5読解	記事4漢字語彙	記事6	5月26日	記事6読解・復習	記事5漢字語彙	なし	6月2日	中間テスト(記事1~5)		なし	6月9日	記事7導入・中間テストFB	記事6漢字語彙	記事7	6月16日	記事8導入・記事7読解	中間テスト漢字語彙	記事8	6月23日	記事9導入・記事8読解	記事7漢字語彙	記事9	6月30日	記事10導入・記事9読解	記事8漢字語彙	記事10	7月7日	記事11導入・記事10読解	記事9漢字語彙	記事11	7月14日	記事11読解・復習	記事10漢字語彙	なし	7月21日	期末テスト(記事6~11・漢字6~10+中間テスト)			7月28日	期末テストフィードバック		
日付		小テスト	宿題																																																																						
4月7日	ガイダンス・記事1	漢字実力テスト	記事1																																																																						
4月14日	記事2導入・記事1読解		記事2																																																																						
4月21日	記事3導入・記事2読解	記事1漢字語彙	記事3																																																																						
4月28日	記事4導入・記事3読解	記事2漢字語彙	記事4																																																																						
5月5日	こどもの日																																																																								
5月12日	記事5導入・記事4読解	記事3漢字語彙	記事5																																																																						
5月19日	記事6導入・記事5読解	記事4漢字語彙	記事6																																																																						
5月26日	記事6読解・復習	記事5漢字語彙	なし																																																																						
6月2日	中間テスト(記事1~5)		なし																																																																						
6月9日	記事7導入・中間テストFB	記事6漢字語彙	記事7																																																																						
6月16日	記事8導入・記事7読解	中間テスト漢字語彙	記事8																																																																						
6月23日	記事9導入・記事8読解	記事7漢字語彙	記事9																																																																						
6月30日	記事10導入・記事9読解	記事8漢字語彙	記事10																																																																						
7月7日	記事11導入・記事10読解	記事9漢字語彙	記事11																																																																						
7月14日	記事11読解・復習	記事10漢字語彙	なし																																																																						
7月21日	期末テスト(記事6~11・漢字6~10+中間テスト)																																																																								
7月28日	期末テストフィードバック																																																																								
方法と種類	<p>1回の授業の内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前の週に学習した漢字や語彙、表現についての簡単な確認テスト 2. 新しい記事の見出しの穴埋め・背景説明(記事2つ~3つ) 3. 前の週に配った新聞記事の読解練習 4. (時間があれば)内容に関するディスカッション <p>配られた新聞記事を読み、質問の答えを書いてくることを宿題にする。</p>																																																																								
教材	プリントで配布する。																																																																								
成績評価の基準および方法	<p>平常点(授業への参加度・小テスト・宿題)……10%</p> <p>中間試験……40%</p> <p>期末試験……50%</p>																																																																								
留意点	※ この授業は2クラスとの合同授業です																																																																								

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	待遇表現A
対象	1クラス (Level 1)
講師名	加藤好崇
クラスの目標・目的	<p>この授業では敬語を中心としながら、日本語母語場面における「待遇行動・待遇表現(たいぐこうどう・たいぐひょうげん)」についての学習を行う。また、日本語接触場面(にほんごせつしよくばめん)や各学生の母語場面における「待遇行動・待遇表現」についての比較も適宜(てきぎ)行っていく。</p> <p>この授業では単に知識を教授するという方法のみをとらず、日本語母語話者の言語行動を学生自らが観察・分析を行ったリ、さらには実践を行ったりすることによって、より日本語母語話者の「待遇行動・待遇表現」、さらには自らが日本語接触場面で実践する「待遇行動・待遇表現」に関する能力を向上させることを目標とする。</p> <p>また、学生(5名ずつ)は毎週必ず1週間の間に見聞きした待遇表現の例と、待遇のあり方を変えた文を発表しなければならない。</p>
スケジュール	<p>日付 テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ① 4/7 待遇表現とは何か・教科書3～5 HW: 尊敬語・謙譲語・丁寧語の復習 2. ② 4/14 初対面接触場面でのスピーチスタイル・話題の変化・教科書6～9 3. ③ 4/21 日本人との初対面接触場面／他の国の人との初対面場面／母語場面の初対面場面を考える・教科書10～15 4. ④ 4/28 尊敬語・謙譲語・丁寧語・丁寧語・美化語・授受表現 教科書18～50 5. ⑤ 5/12 6. ⑥ 5/19 7. ⑦ 5/26 8. ⑧ 6/2 プレゼンテーション 9. ⑨ 6/9 プレゼンテーション 10. ⑩ 6/16 依頼・誘いと承諾 教科書56～62 11. ⑪ 6/23 助言・忠告 教科書63～67 12. ⑫ 6/30 主張・意見 教科書68～73 13. ⑬ 7/7 許可・申し出 教科書77～81 14. ⑭ 7/14 感謝・おわび 教科書82～85 15. ⑮ 7/21 最終テスト(教科書86～101の総合演習の中から選択) <p><プレゼンテーションについて> 各国の待遇表現と日本の待遇表現の違いについてプレゼンテーションを行う。グループは1名から4名。コンピュータによるプレゼンテーションとハンドアウトの作成を行う。 (例) 日本の敬語と自国の敬語の比較 (例) 日本の初対面場面でのタメ語の使用と自国の比較 (例) 日本と自国の内と外の範囲の違いとことばの使い方</p>
方法と種類	
教材	教科書は『敬語を中心とした対人関係の表現—待遇表現—』(スリーエーネットワーク)を使用する。その他、自作教材等を補いながら授業を行っていく。
成績評価の基準および方法	出席5%、授業参加度10%、プレゼンテーション45%、最終テスト50%
留意点	

クラス名	接触場面A
対象	1クラス (Level 1)
講師名	加藤好崇
クラスの目標・目的	<p>この授業は日本語教育を行う前段階として必要となる接触場面分析の理論を学習し、実践を行うものである。また、将来日本語教師を目指すものは、この1セメスターの授業の中で、日本語学習者あるいは接触場面に参加する日本語母語話者にとってどのような能力が必要であるか、さらに、それらの能力をどのような方法で習得することができるのかについても考えていってほしい。</p> <p>a. 自ら考える力:異文化接触場面におけるコミュニケーションのあり方を考える能力 b. 集い力:異文化接触場面における自己のアイデンティティ獲得と他者との調整能力の獲得 c. 異文化理解:異文化に対するステレオタイプの調整能力や異文化に対する柔軟性の獲得 d. グローバルな視野:自文化規範のみに固執せず、他文化規範あるいは新たな規範や規範の変化に対応する能力の獲得 e. 日本語教育:日本語教育において異文化接触場面研究を応用することができる能力</p>
スケジュール	<p>1) 4/7 ガイダンス 2) 4/14 接触場面とインターアクション能力 3) 4/21 言語管理理論① 4) 4/28 言語管理理論② 5) 5/12 言語管理理論③ 6) 5/19 リサーチ発表1 (初対面場面分析) 7) 5/26 ポライトネス理論① 8) 6/2 ポライトネス理論② 9) 6/9 ポライトネス理論③ 10) 6/16 会話分析① 11) 6/23 会話分析② 12) 6/30 会話分析③ 13) 7/7 多様な接触場面のインターアクション(観光接触場面) 14) 7/14 リサーチ発表2-1 15) 7/21 リサーチ発表2-2</p>
方法と種類	<p>接触場面の具体的な談話を分析する方法には様々な理論的枠組みがあるが、本授業では言語管理理論、ポライトネス理論、会話分析の三つを取り上げ、それぞれの基礎的な考え方を講義し、また授業内で具体的な接触場面談話をもとに分析の実践を行っていってもらう。</p> <p>また、それぞれの理論的枠組みを用いて、自らが収集をした接触場面データをもとに、二回のレポート作成が課題とされる。一つの目のレポートでは初対面接触場面、二つ目は電話やメール、あるいはパーティー場面など、様々な接触場面を各自選択し、分析を行う。</p>
教材	<p>授業中に適宜指示される文献等</p> <p>参考文献『異文化接触場面のインターアクション』加藤好崇 東海大学出版会 参考文献『ポライトネス入門』滝浦真人 研究社 参考文献『新しい日本語教育のために』J.V.ネウストプニー 大修館書店 参考文献『日本語教育と会話分析』堀口順子 くろしお出版</p>
成績評価の基準および方法	出席率10% / 授業貢献度10% / レポート(2回)60% / 課題達成度(プレゼンテーションなど)20%
留意点	<p><プレゼンの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 接触場面:会話の参加者に母語話者と非母語話者がいる場面 ▶ 内的場面(母語場面):会話の参加者が母語話者だけである場面 ▶ 接触場面研究の必要性:接触場面は日本語非母語話者にとっては現実の場面であり、準母語話者と認められるまで母語場面とは異なる場面でのインターアクションを体験する。

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	日本の歴史と文化
対象	1クラス (Level1)
講師名	葛西里奈・坂根慶子
クラスの目標・目的	この授業は来学期文化系学部に進学予定の学生たちといっしょに学ぶクラスである。学部進学 of 留学生には日本人学生が持っている歴史に関する基礎知識が必要となる。よって、日本史の知識の概略に関して、その流れを中心に学ぶことがこの授業の目的である。
スケジュール	<p>4/7日 授業ガイダンス 9日 政治史の流れ 14日 1. 日本の統一 16日 2. 飛鳥時代 21日 3. 奈良時代 23日 4. 平安時代Ⅰ 28日 5. 平安時代Ⅱ 30日 6. 鎌倉時代</p> <p>5/5日 こどもの日で休み 7日 7. 室町時代 12日 8. 戦国時代 14日 9. 江戸時代Ⅰ 19日 10. 江戸時代Ⅱ 21日 11. 明治時代Ⅰ 26日 12. 明治時代Ⅱ 28日 「明治維新」ビデオ視聴</p> <p>6/2日 13. 大正・昭和 4日 14. 現代</p> <hr/> <p>9日 1. 文化史の流れ 14日 2. 国際交流の流れ 16日 3. 宗教の流れ 18日 4. 美術の流れ 26日 5. 文学の流れ 28日 6. 芸能の流れ 30日 7. 教育の流れ</p> <p>7/3日 8. 生活の流れ1) 衣・住 7日 9. 遊び: 1) 観劇・映画・アニメ 10日 10. 生活の流れ2) 食文化 14日 9. 遊び: 2) ゲーム 17日 11. 日本の年中行事 21日 9. 遊び: 3) スポーツ・4) 旅 24日 試験</p>
方法と種類	講義形式の授業に慣れることが、この授業の目的でもあるので、前半はテキスト解説を中心とした教師の講義をおこなう。講義を聴きながらノートを書く力をつけるために、ノートの書き方について、項目ごとにチェックする。また、問題発見能力を鍛えるために、授業終了後にノート整理をし、自分が考える疑問点を2つ書かなければならない。
教材	国際教育センター編『日本の歴史と文化』・歴史資料集
成績評価の基準および方法	①授業で毎回作成する疑問点30%+②平常点20%+③最終試験50%
留意点	この授業は月曜日と水曜日と両方にとって単位になるので2日とも出ること。

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	ジェンダー論
対象	1クラス (Level 1)
講師名	小貫大輔
クラスの目標・目的	<p>「ジェンダー」の視点から、日本と他の国々の文化や社会のあり方を比較します。「ジェンダー」とは、大雑把に言って「男であること、女であること」の区別のことです。その境界線の引き方は強く文化・社会の力によって規定されるもので、どのような線を引こうとしても(あるいは引かないことを主張しても)、それぞれの文化・社会で賛否両論強い感情を引き起こすものです。この授業では、ディスカッションやその他の参加型ワークを多用して、学生自身がそのような感情を体験する機会を設けます。そうすることで、自分自身の「ジェンダー観」を見つめ直し、またその上で自分の生きる文化・社会、そして時代について客観的に見る目を養ってほしいと思います。</p> <p>学生には一人ひとりに国や地域、民族を担当してもらい、授業で扱うテーマに沿って下調べした内容をそれぞれに持ち寄ってもらいます。授業の中では、自分の調べた内容について発表する他、活発に自分の意見を述べることで、クラスが有意義なディスカッションをもてるように貢献してください。</p>
スケジュール	<p>第1回(4月8日-火) ガイダンス 第2回(4月11日-金) ワークショップ「男性が授乳できるようになる日」 第3回(4月15日-火) ワークショップ「結婚？」 第4回(4月18日-金) 教員と学生の自己紹介「あなたを定義するもの」 第5回(4月22日-火) 国際学(国際開発分野)とジェンダー(1) 第6回(4月25日-金) 国際学(国際開発分野)とジェンダー(2) 第7回(5月9日-金) 言語とジェンダー「西洋の諸言語」 第8回(5月13日-火) 言語とジェンダー「日本語」 第9回(5月16日-金) 身体としてのジェンダー「性差の生理学」 第10回(5月20日-火) 身体としてのジェンダー「性別違和と様々な性」 第11回(5月23日-金) 身体としてのジェンダー「性分化の生物学と男性の性器」 第12回(5月27日-火) 身体としてのジェンダー「出産・授乳(1)」 第13回(5月30日-金) 身体としてのジェンダー「出産・授乳(2)」 第14回(6月3日-火) 身体としてのジェンダー「まとめ」 第15回(6月6日-金) 役割としてのジェンダー「生まれかわれるなら男？女？」 第16回(6月10日-火) 役割としてのジェンダー「男子と女子、数学が得意なのは？」 第17回(6月13日-金) 役割としてのジェンダー「性による役割分業の起源？」 第18回(6月17日-火) 役割としてのジェンダー「男女共同参画社会(1)」 第19回(6月20日-金) 役割としてのジェンダー「男女共同参画社会(2)」 第20回(6月24日-火) 役割としてのジェンダー「まとめ」 第21回(6月27日-金) 歴史の中のジェンダー「家父長制と結婚」 第22回(7月1日-火) 歴史の中のジェンダー「フェミニズム」 第23回(7月4日-金) 歴史の中のジェンダー「クエア理論」 第24回(7月8日-火) 歴史の中のジェンダー「人類の多様性(1)」 第25回(7月11日-金) 歴史の中のジェンダー「人類の多様性(2)」 第26回(7月15日-火) 歴史の中のジェンダー「まとめ」 第27回(7月18日-金) レポート作成のためのワークショップ 第28回(7月22日-火) レポート作成のためのワークショップ 第29・30回(7月25日-金、2限・3限) レポート提出と発表</p>
方法と種類	<p>火曜と金曜日に開かれる授業です。可能な限り火曜と金曜の両方の授業に参加してください。4単位を出します。</p> <p>学生同士のディスカッションを多用するので、日本語でのコミュニケーションの力が要求されます。他方、毎回の授業で書いてもらうリフレクション・ペーパーやファイナル・レポートは日本語で書いても英語で書いても受けつけます。</p>
教材	教科書は定めませんが、各回に資料をコピーして配ります。
成績評価の基準および方法	<p>○毎回の授業での参加の度合い(50点) ○レポート(50点)</p>
留意点	

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	日本の政治事情
対象	1クラス、2クラス(Level 1,2)
講師名	山田正志
クラスの目標・目的	現代日本の政治にかかわる基本的な概念・用語、および知識を習得する。
スケジュール	
方法と種類	<p>1. 内容 日本国憲法の諸問題、国会、国会議員、内閣、行政組織、選挙、政党、政権交代、</p> <p>2. 方法 講義形式による</p> <p>★ 学部進学クラスとの合同</p>
教材	<p>1. 東海大学別科テキスト『日本の社会・政治・経済』のうち、「政治」編</p> <p>2. その他、必要に応じて、新聞記事などを使用する</p>
成績評価の基準および方法	<p>定期試験および出席・授業態度</p> <p>試験70%、出席等30%</p>
留意点	

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	能力試験対策A
対象	1クラス (Level 1)
講師名	外崎淑子(とのさきすみこ)
クラスの目標・目的	日本語能力試験N1合格を目指す学生を支援する。 春学期のJLPT試験は、7月6日(日)に行われる。(申し込みは4月30日まで)
スケジュール	
方法と種類	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に基づき、漢字・語彙・文法・読解・聴解の全てを学習します。 ・教科書の読解、聴解部分は自宅での宿題とします。 ・漢字・語彙・文法部分は、自宅での予習と授業での内容理解チェックテストを繰り返すことで進めていきます。 ・7月6日の試験に向け、全ての内容が終わるよう授業計画を立てます。(行事等で変更の可能性あり) ・教科書以外の応用練習問題(読解・聴解を含む)を配付し、個別のレベルの違いに対応するようにします。
教材	教科書『CD付き 一発合格!日本語能力試験N1 完全攻略テキスト&実戦問題集』 インターカルト日本語学校 ナツメ社 その他、適宜練習用プリントを用意します。
成績評価の基準および方法	毎回の確認テスト(30%)＋個別学習進度(20%)＋期末テスト(50%)
留意点	個別作業が多くなると思いますが、できるだけグループ活動を取り入れていきたいと思っています。

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	文章表現ⅡA
対象	1クラス (Level 1)
講師名	坂根 慶子
クラスの目標・目的	このクラスでは、大学生活と社会生活に必要なレポートの書き方、要約(ようやく)のしかた、手紙、などの文書の書き方を例文と実践(じっせん)によって習得(しゅうとく)し、文章表現力を高めていくことを目的とします。その他に詩、俳句など文学的な文章の入門も行います。 外国語で書くためには、文法力、語彙(ごい)力、構文力(こうぶんりょく)、表現力のすべてが必要とされます。外国語で文章表現ができることは外国語学習の完成の一つですから、挑戦(ちょうせん)してみてください。
スケジュール	
方法と種類	例文による書き方の方法を習得した後、実際に文章を書きます。文章の長さによって授業中に書いたり宿題にしたりします。要約の場合はだいたい授業時間内に書きます。調べて書くものは宿題とし、手紙、書類、短い課題文などについては時間内に書き上げることを目標とします。 最終課題は原稿用紙5枚程度(2000字)の論理的なレポートです。 実際に文を書く回数:5~7回 授業スケジュール 1. 要約2回 2. 意見文(比較対照の文 分類の文など)3回 3. 定義文 1回 4. 手紙文 1回 5. その他 その他に期末レポート 1本
教材	自作教材 プリント 参考教材 木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫 戸田山和久『論文の教室』NHKブックス
成績評価の基準および方法	課題文の提出と評価50%、期末レポート30%、 出席+授業への参加度20% 以上を総合的に評価します。
留意点	授業中に辞書、電子漢字辞書を持ってくと役に立ちます。 第1回の授業時により詳細なシラバスを配布します。 * 課題文が評価の対象になるので、必ず提出してください。

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	時事日本語研究IIA
対象	1クラス (Level 1)
講師名	寺田裕子
クラスの目標・目的	生のニュースを取り上げ、時事的なトピックを扱った記事を読んで理解するという日本語聴解スキルの養成を目指す。時事的な記事について、聞く・書くというスキルを重視していく。 具体的には、1)時事ニュースを聞き取り、要約できる、2)ニュースのキーワードがわかる、3)時事問題について日本語で議論ができる、というスキルを身につけることを目的とする。
スケジュール	
方法と種類	基本は、NHKのニュースを取り上げる。毎週、直近のニュースを選び、それを流す。 1)一回目では、どれぐらいの内容が把握できるか、 2)二回目では、どう変化するか、一回目と比較する、 3)最後に、限られた時間内に、記事内容の要約作文をして提出 その後 4)漢字語彙表を配り、語彙の解説をする、 5)理解の確認(記事のスク립トの配布) という流れで行う予定。 また、時事用語「今日のことば」について、毎回、担当者を決め、用語の解説を行う。
教材	直近のニュースを、「社会・暮らし・経済・政治・国際・スポーツ・科学・文化」というテーマからいくつか選んで扱う。履修生の日本語のレベルによるが、できるだけ多くのニュースを聞き取り、その話題から、日本の時事問題について、理解を深められるような内容のニュースを選ぶ。
成績評価の基準および方法	出席、毎回の要約作文、用語解説、期末テストを総合的に評価。
留意点	履修者が担当する「今日のことば」の発表 2013年度秋学期の発表トピックは、以下のようなテーマだった。 「早すぎる死」、「就活」、「隠れ不眠」、「経済水域」、「半沢直樹ブーム」、「山本太郎」、「ネット詐欺」、「和食と世界遺産文化登録」など

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	音声表現IIA①
対象	1クラス (Level 1)
講師名	寺田裕子
クラスの目標・目的	コミュニケーション能力をつけるためには、正しい音声で発話することが重要です。 正しく美しい日本語を話すために日本語音声の基礎から学び、実践できるまでを目指します。
スケジュール	第1回 オリエンテーション 日本語を話すときの留意点の導入 第2回 わかりやすい自己紹介 第3回 名詞のアクセント1「頭高・尾高・平板・中高」4種類のアクセント型 第4回 名詞のアクセント2 複合語のアクセントとアクセント核 第5回 形容詞のアクセント 第6回 中間テスト 課題文テストとフィードバック自己紹介のアクセント指導 第7回 中間テスト 課題文テストとフィードバック 自己紹介のアクセント指導 第8回 動詞のアクセント1 動詞と活用形 第9回 動詞のアクセント2 複合動詞など 第10回 助詞と句のアクセント 第11回 話し言葉のアクセント 第12回 期末テスト 課題文テスト 第13回 期末テスト 課題テスト 表現力がどれだけついたのか フィードバック 第14回 期末テスト 自己紹介とフィードバック
方法と種類	毎回、授業で課題を提示し、アクセント規則を説明し、練習します。 次回までに、課題の音声ファイルで練習後、課題としてウェブ教材に提出。 課題は以下の通り。
教材	WEB上に教材をおき、音声ファイルの録音、提出、返却を行います。 参考教材 1『日本語の発音教室』(1999) 田中真一・窪田晴夫 ころしお出版 2『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』(2007) 戸田貴子 スリーエーネットワーク
成績評価の基準および方法	出席20%、中間テスト20%、期末テスト20%、毎回の授業参加度20%、課題の成果20%
留意点	この授業は、特にアクセントについて、日本語の音韻規則を説明しながら、学生個々の発音を丁寧に指導します。 よって、一度、この授業を受けた学生は、再履修できません。また、個々の発音チェックが多いため、履修希望者が多い場合、初回の授業で人数制限をします。

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	日本文化概論
対象	1クラス (Level 1)
講師名	村上 治美
クラスの目標・目的	<p>この授業の目的は日本文化全般を「広く・浅く」紹介することで、日本文化についての基礎知識を得ることにある。毎時限取り上げる分野はそれぞれ15コマあっても概説しきれないほど深く広大なものである。それをたった1コマで次々に紹介していくので、興味を持った分野に関してはさらに自分で深めて期末レポートにまとめてほしい。講義を聴く受身の授業だけでなく、各自が割り当てられた項目を調べ、簡単に報告することによって理解を深める活動もおこなう。</p> <p>この授業は日本人学生対象の副専攻科目の一つとして開講されている「日本文化概論」との合同授業であるので、日本人学生とともに学び、意見を交換しあうことによって学びを深めてもらいたい。日本の若者も日本の伝統文化にあまり親しんでいない現状を実感しつつ、彼らとともに異文化体験をすることで「日本的なものとは何か」について考えていく。</p>
スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4/10 ガイダンス: 祝祭日にみる日本文化の特色 2. 4/17 日本の詩歌に表れた日本人の美意識1(さくら) 3. 4/24 日本の詩歌に表れた日本人の美意識2(雨) 4. 5/01 文化体験実習: 詩吟 5. 5/08 日本の伝統文化1: 茶道・華道・歌舞伎・能・武道など(グループワーク・発表) 6. 5/15 日本の伝統文化2: 日本の食文化・懐石料理(グループワーク・発表) 7. 5/22 日本の伝統文化3: まとめ 8. 5/29 日本人に愛されたヒーロー像 9. 6/05 別科日本語研修会参加のため休講: 歌舞伎鑑賞 10. 6/12 日本のPOPカルチャー1: 日本のマンガ文化 11. 6/19 日本のPOPカルチャー2: 日本のアニメ文化 12. 6/26 日本のPOPカルチャー3: 日本のTVドラマ文化 13. 7/03 外国人が考える日本の謎1: 天皇制はなぜ続いているのか? 14. 7/10 外国人が考える日本の謎2: 日本人の宗教意識はどうなっているのか? 15. 7/17 レポート返却・レポートの書き方指導 <p>授業の最後に簡単な報告書を作成し、授業内容の理解の確認をおこなう。</p>
方法と種類	
教材	
成績評価の基準および方法	①毎回の授業報告書40%+②発表20%+③最終レポート40%
留意点	授業中に事前に配布される資料は必ず目を通すこと。授業時間中の討論には積極的に参加すること。

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	日中比較研究A
対象	1クラス、2クラス (Level 1&2)
講師名	宮城 幸枝・森山 美紀子
クラスの目標・目的	この授業では、主に「話す、聞く、書く」力を身につけることを目標とします。到達目標は以下の通りです。より具体的には「授業スケジュール」をご覧ください。「結果」欄に、S～Eの評価を記入して客観的に自分の実力を確認し、学習方法を点検・改善しましょう。
スケジュール	<p>第1回 授業説明:授業の目的とルール・アンケート・要望聞き取り、日本語の会話想定練習(使える表現の復習)</p> <p>第2回 前半:授業の目的とルール説明 後半:メンバー顔合わせ、グループワークで自己紹介準備</p> <p>第3回 前半:自己紹介発表と質疑応答 後半:次回のグループワークの準備</p> <p>第4回 グループワーク①-1 準備「日・中台の歌とゲームの紹介」 前半:日・中台のグループで話し合い、作業 後半:(学習言語でも説明できるようにするため)日・中台混成のグループになり、学習言語発表の準備</p> <p>第5回 グループワーク①-2 本番 歌とゲームの紹介</p> <p>第6回 グループワーク②-1 準備「グループ会話」テーマ決め グループに分かれ、準備</p> <p>第7回 グループワーク②-2 本番 前半:グループ会話・質問の練習 後半:メンバーをチェンジしグループ会話・質問</p> <p>第8回 前半:グループメンバーの内容紹介の準備 後半:グループメンバーの内容を全員の前で学習言語で紹介</p> <p>第9回 前半:これまでの授業の振り返りを行う 学習言語チェック 後半:グループ会話練習</p> <p>第10回 グループ発表準備(1) 全体でのテーマ選定、グループ決め、準備開始</p> <p>第11回 グループ発表準備(2)</p> <p>第12回 グループ発表準備(3)</p> <p>第13回 グループ発表準備(4)</p> <p>第14回 グループ発表 リハーサル・修正</p> <p>第15回 グループ発表 本番 グループ発表に対し採点・評価 自己評価・振り返り用紙配布</p>
方法と種類	<p>この授業は、別科日本語研修課程の中国・台湾からの留学生と中国語を学ぶ日本人学生が合同授業を通じて、生きた日本語と中国語会話を学ぶ授業です。ペアワークやグループワーク、発表などを通じ、互いの学習言語を学び合うと同時に、中国・台湾・日本の文化・風俗習慣などへの理解を深めます。</p> <p>この授業の対象者は、日本人との交流に意欲的な学生です。授業を通じ、日本人とのコミュニケーションが可能な会話力を身につけることを目標とします。授業では、自己紹介表現を復習することから始め、日本と中国の文化比較などに関するテーマも扱います。毎回の授業課題をこなしていくことにより、日本語で自らの情報を積極的に発信し、より多くの情報を受信できる日本語運用能力と、既定の目標レベルに到達するための挑み力(プランニング力)や成し遂げ力(実行と継続力)を養っていきます。</p>
教材	<p>学習到達度チェック表 準備作業への取り組み方、発表時のパフォーマンス、中間試験・期末試験がチェック対象。 以下の項目を{ S ほぼ完璧に A 7割以上 B 半分以上 C どうか }できる、E できない でチェック。</p> <p>到達目標 結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 準備した中国語の文章を辞書を使い日本語に訳すことができる 2 日本人に日本語で簡単な質問ができ、日本人の回答を聞き取ることができる 3 日本人の日本語による質問を聞き取ることができ、簡単な回答ができる 4 準備すれば自分の言いたいことを正確な日本語で発話することができる 5 事前に原稿を暗記し、授業の発表時に聞き取りやすい日本語でスピーチできる 6 日本人に中国語の語彙や文法、正確な発音やイントネーションを上手く教えることができる 7 教室活動の準備時間や授業時間以外にも、言語を問わず自ら積極的に留学生に話しかけ、日本語或いは中国語で情報交換をする意欲が見られる <p>成績評価は全体の3分の2の出席があることを前提に行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習到達度チェック表の1～6の項目について、準備作業への取り組み方、課題のパフォーマンスに基づき、{ S ほぼ完璧に A 7割以上 B 半分以上 C どうか }できる、E できない をもとに点数化(100点満点)に換算し、平均点を出す。 2. 欠席は2点、遅刻は1点、授業中に注意を受けた等問題があった場合は1点とし、1の平均点からマイナスする。課題を実施していない、或いは提出していない場合も減点する。 3. 1と2の合計点に基づき、S(90点以上)、A(80～89点)、B(70～79点)、C(60～69点)、E(59点以下)で成績評価を行う。途中から授業に出席しなくなった場合などは/とする。
留意点	<ol style="list-style-type: none"> ① 欠席せず、学習したことは必ず復習しましょう。 ② 授業には必ず日本語辞典を携帯してください。 ③ この授業は日本人との共同作業が主体となるので、授業には遅刻、早退、無断欠席をしないようにしてください。やむを得ず欠席する場合は、事前に教員もしくはクラスメートに連絡してください。(担当教員メールアドレス: meijizi@mtc.biglobe.ne.jp) ④ 各自の学習状況について、授業スケジュール表にある「自己チェック」「振り返りチェック」と、上の「学習到達度チェック」で主観的・客観的に確認しましょう。到達度が低い場合は、予習・復習・授業でのノートの取り方などに問題がある可能性がありますので、適宜担当教員に相談し、自分の学習方法を改善していきましょう。

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	日本の経済事情A①
対象	1クラス (Level 1)
講師名	山田正志
クラスの目標・目的	現代日本の経済にかかわる用語・課題・事情について把握し、理解を深めること
スケジュール	
方法と種類	<p>1. 内容 日本経済の軌跡、日本の産業、政府と経済、金融と財政、バブル経済と崩壊、リーマンショックと日本経済、その他</p> <p>2. 方法 講義形式を主とする。</p> <p>★ 学部進学クラスとの合同</p>
教材	1. 東海大学別科テキスト『日本の社会・政治・経済』のうち、「経済」編
成績評価の基準および方法	<p>定期試験および出席・授業態度 試験70%、出席等30% (定期試験はレポートによる)</p>
留意点	

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	文章表現A
対象	1クラス (Level 1)
講師名	坂根 慶子
クラスの目標・目的	この授業は、文章表現力を高めることを目的としています。 日本語で書くこと(文章表現)には文法力、語彙(ごい)力、構文力(こうぶんりょく)、表現力などの総合的な能力が必要とされます。それを養成(ようせい)するためには書くことの実践(じっせん)が必要です。このクラスでは大学生活と社会生活に必要なレポートの書き方の習得を最終目標に、文書(ぶんしょ)の書き方を例文と実践によって学び、文章表現力と語彙力を高めていきます。その他に教養としての詩、俳句など文学的な文章の入門も行います。 外国語で文章表現ができることは外国語学習の完成の一つですから、挑戦(ちょうせん)してみてください。
スケジュール	
方法と種類	例文による書き方の方法を学んだ後、実際に文章を書きます。400字ぐらいの要約の場合は授業時間内に書きます。調べて書くもの(800字以上)は宿題とします。手紙、文書、短い課題文などについては時間内に書き上げることを目標としています。最終課題は原稿用紙5枚程度(2000字)の論理的なレポートです。その他に文学的な文章を創作することも予定しています。 実際に文を書く回数: 5~7回 実践内容 1. 要約文 2回 2. 意見文(比較対照、分類の文など) 3回 3. 定義文 1回 4. 手紙文 1回 5. その他 期末レポート 2000字程度(題は自由)
教材	教材: 東海大学日本語教育センター編 『日本語 I —大学で使う口頭表現・文章表現のために—』 参考教材: 木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫 戸田山和久『論文の教室』NHKブックス
成績評価の基準および方法	課題文の提出と評価40%、期末レポート40%、 出席+授業への参加度20% 以上を総合的に評価します。
留意点	授業中に辞書、電子漢字辞書を使うので持ってきてください。 第1回の授業時により詳細(しょうさい)なシラバスを配ります。 * 課題文が評価の対象になりますから必ず提出してください。

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	プロジェクト入門A
対象	1クラス、2クラス (Level 1,2)
講師名	結城健太郎
クラスの目標・目的	日本人と一緒に計画・発表する力を身につけます。旅行を計画しながら、日本の地理・社会について知り、日本人の考え方を学びます。日本語で話し合い、意見を言うことができるようになります。
スケジュール	<p>第1回: グループを作り、自己紹介をします。</p> <p>第2回: 旅行する人</p> <p>第3回: 旅行の目的</p> <p>第4回: 旅行の目的</p> <p>第5回: 旅行に必要なもの</p> <p>第6回: プレゼンテーション</p> <p>第7回: 旅行する場所</p> <p>第8回: 旅行する場所</p> <p>第9回: 旅行の日程</p> <p>第10回: 旅行の日程</p> <p>第11回: プレゼンテーション</p> <p>第12回: 再検討</p> <p>第13回: トラブルについて</p> <p>第14回: トラブルについて</p> <p>第15回: プレゼンテーション</p>
方法と種類	<p>日本人の学生とグループを作り、外国人向けの日本旅行を計画します。</p> <p>(1)旅行する人、目的を考えます。</p> <p>(2)旅行に必要なもの(お金、ビザなど)を考えます。</p> <p>(3)旅行する場所・方法・日程を考えます。</p> <p>(4)トラブル(事故、病気)について考えます。</p> <p>(1)から(4)を日本語で話し合い、分担して調べます。レポートを書き、パワーポイントで発表します。</p>
教材	教科書はありません。プリントを配ります。
成績評価の基準および方法	出席と参加の評価が50%、レポートとプレゼンテーションの評価が50%です。
留意点	

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	口頭表現A
対象	1クラス、2クラス (Level 1, 2)
講師名	斉木ゆかり
クラスの目標・目的	下記(かき)の学習到達(とうたつ)の5つの目標が達成(たっせい)できるようになることです。
スケジュール	
方法と種類	<p>話す事について理解し、苦手意識(にがていしき)がなくなるような授業をします。 気軽に話せることから少しずつ難度(なんど)を上げた演習をします。 具体的には「クラスメートとの対話」と「独話(どくわ)」、ミニディベート、ミニドラマ、台本(だいほん)のあるドラマを体験します。そして、クラス全体で一つのドラマを作り、他のクラスの皆に見てもらいます。話すテーマは皆さんにとって身近なものです。発表したり、議論(ぎろん)したり、演劇(えんげき)をすることによって、日本語らしい表現を知ったり、緊張(きんちょう)しないで日本語が話せるようになることを体験してください。 実際にやってみる事で難しさや面白さが実感でき、気がつくと話すことが楽になる自分に気づくでしょう。</p>
教材	授業で配布(はいふ)します。
成績評価の基準および方法	スピーチ:20点、ミニディベート:20点、シナリオのあるドラマ:20点、インプロ:20点 チームワーク:20点、計 100点
留意点	

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	日独比較研究 A
対象	1クラス、2クラス (Level 1, 2)
講師名	佐原 雅通
クラスの目標・目的	<p>①日本語の正確な理解力と日本語の表現能力を高めることに主眼を置く。教材として、ドイツ語のインターネットからニュース記事を使用する。 内容的には、政治、経済、社会、技術、医学、文化等の分野から、日独が共通して直面するアクチュアルなテーマを扱う。日独の現代事情と並んで、日独の文化的な背景の差異についても考察する。</p> <p>②日本の文学作品もテキストとして扱う。文学作品の日本語の微妙なニュアンスを正確に理解することにも重点を置く。</p>
スケジュール	
方法と種類	<p>①日本語訳の練習 (1)毎週、ドイツ語のインターネットからニュース記事を選んでプリント配布。 (2)単語の日独対照リストを作成。 (3)日本語の単語の読み方、意味を確認。 (4)順番に逐語訳の練習をする。 宿題: 毎週、日独対照リストを参考に、ドイツ語のニュース記事を日本語に訳して提出する。</p> <p>②ドイツ語訳の練習 (1)村上春樹の文学作品とドイツ語の翻訳をコピーして配布する。 (2)村上春樹の文学作品を正確に理解し、ドイツ語の翻訳と比較する。 (3)翻訳の正誤を検討する。 宿題: 毎週、担当者を決める。担当者は授業で検討したドイツ語訳を翌週に提出する。</p>
教材	<p>①ドイツ語 → 日本語 : インターネットサイトのドイツ語ニュース。 ②日本語 → ドイツ語 : 村上春樹の短編作品。 「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」 「レーダーホーゼン」</p>
成績評価の基準および方法	<p>学期末に提出するレポートの成績、①、②に関連した宿題の内容、そして平常点を総合して成績評価を行なう。</p>
留意点	

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	日韓比較研究ⅡA
対象	1クラス、2クラス (Level 1, 2)
講師名	阿部 由美子
クラスの目標・目的	<p>1)文化的・言語習得上の視点</p> <p>韓国に関心を持つ日本人学生と日本語・韓国語を媒介として共同で討論や発表などを行い、日本の社会や文化を韓国と比較しつつ学ぶ姿勢を身につける。また、言語学習にもそれを活かし、母語としての韓国語と学習言語としての韓国語の違いを意識し、パートナーとなった日本人学生の韓国語能力の向上に主体的に取り組む。</p> <p>2)交流の視点</p> <p>同年代の学生とのコミュニケーションを通じて日本語による発信能力を高め、同時に現代的な口語に接する機会とする。</p>
スケジュール	
方法と種類	<p>授業は学部の「コリア語会話中級」履修者との合同で、毎回グループ活動で行う。</p> <p><前半>ディスカッション(韓国語と日本語のセッションに分けて行う) 毎回、日韓双方の教員が提供する日本語・韓国語の会話資料をもとに、あるテーマでグループ討論を行う。その中で互いの母語について教えあう。また、毎回、授業の感想や新たに学習したこと、疑問点などを日本語で評価シートにまとめて提出、教員との意思疎通を図る。</p> <p><後半>プレゼンテーション グループごとに主題を決めて日韓文化比較を行い、PPTを使ってクラスで発表する。その準備の過程で互いに母語表現を教えあい、発音指導も充分行う。発表内容については双方の言語でハンドアウトを作成する。さらに発表後、どのように準備したか、各自の発表内容などについて個人報告書を作成して提出する。</p>
教材	特に指定しない。毎回教員が作成したプリント教材使用。
成績評価の基準および方法	<p>出席点:30%・前半の報告書20%・プレゼンテーション30%・プレゼンの報告書20%</p> <p>授業中の活動が主となるので、出席と授業中の参加態度を重視する。授業・交流活動への貢献が重要で、①発展的な討論になるようにどのような意見を出したか、②自分の発表だけでなくグループの発表にどれだけ協力したか、③日本人学生の韓国語指導をどのように行ったか、なども評価シートや個人報告書を通じて評価する。</p>
留意点	<p>教員の講義を受動的に学ぶ授業ではないので、能動的に授業に参加し、よりよい授業・時間にしようという積極的な姿勢が求められる。討論が停滞すれば自らの発言で活性化を図り、またグループ全体の協働と発展という視点を持って、活動に活発に参加してほしい。</p>

2014年度 春学期 日本語別科 1クラス シラバス

クラス名	日露比較研究A
対象	1クラス、2クラス (Level 1, 2)
講師名	近藤 喜重郎
クラスの目標・目的	(1) 日本語の理解度と表現力を高めることに主眼を置く。 (2) 日本とロシアの暮らし・文化についてテキストを読み、また発表することを通して互いの文化を比較し、その類似について理解を深める。
スケジュール	
方法と種類	(1) 前半と後半とで内容と方法が分かれる。 (2) 前半では上記プリントを使用して露文和訳を行う。毎回、一定量のロシア語テキストを日本語に訳すことが宿題として課される。宿題は次の授業で発表され、誤りがある場合にはそれが正される。 (3) 前半の途中と最後に小試験を行う。試験内容は、授業で使用したテキストの範囲内での露文和訳である。 (4) 後半では、10分間の日本語によるプレゼンテーションを行う。毎回、2名の学生に日本語とロシア語によるプレゼンテーションの準備が宿題として課される。宿題は次の授業で発表される(日本語のみ)。発表者以外の学生はそれを聞き、その評価を日本語とロシア語で書いて発表する。プレゼンテーションの原稿と評価の用紙は授業後に提出され、日本語に誤りがある場合には、それが正されて次の授業で返却される。
教材	(1) 授業プリントを用いる (2) 授業プリントは、日本とロシアの暮らし・文化を紹介する学生向けロシア語教材、外国人のためのロシア語検定 試験(B2-C1レベル)の読解問題、インターネットサイトの記事から作成する。 <教材として使用する文献> ・ 佐藤靖彦『ロシア語作文・日本の四季——和文露訳の試み』新読書社 ・ Теремова Р.М., Гаврилова В.Л. Актуальный разговор: чем живет человек: Учебное пособие по русскому языку для иностранцев. СПб. «Коста», 2005. ・ Учебное-тренировочные тесты по русскому языку как иностранному. Выпуск 2. Чтение: учебное пособие / под общ. ред. М.Э. Парецкой. - 4-е изд. СПб. «Златоуст», 2002. ・ その他ロシアで出版されたロシア語教科書およびインターネットサイトの記事など
成績評価の基準および方法	(1) 平常点(授業態度、出席状況など)20% (2) 課題30%(前半の翻訳10%、後半のプレゼンテーション10%、その評価10%) (3) 小試験20% (4) 期末試験30%
留意点	授業は日本語で行う。

日本語別科 2クラス 全体目標

クラス名	2クラス (Level 2 上級)
クラスの目標	初級・中級で学んだ文法・語彙などの知識を組み立てて運用力を高める。
学習する文型項目・語彙・漢字数	N2合格レベル 漢字1000字～2000字、語彙6000～10000

クラス名	時事日本語研究 I A																																																																								
対象	1クラス、2クラス (Level 1, 2)																																																																								
講師名	北村 よう																																																																								
クラスの目標・目的	ニュースで使われることばを通して日本語の語彙(特に漢字語彙)を増やし、時事日本語に特有の表現について学ぶ。題材として扱うのは、主に新聞記事とインターネット上のニュースである。毎回の宿題によって、ポイントをとらえ、自分のことばで内容をまとめられる力を身につける。																																																																								
スケジュール	<table border="0"> <thead> <tr> <th>日付</th> <th></th> <th>小テスト</th> <th>宿題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月7日</td> <td>ガイダンス・記事1</td> <td>漢字実力テスト</td> <td>記事1</td> </tr> <tr> <td>4月14日</td> <td>記事2導入・記事1読解</td> <td></td> <td>記事2</td> </tr> <tr> <td>4月21日</td> <td>記事3導入・記事2読解</td> <td>記事1漢字語彙</td> <td>記事3</td> </tr> <tr> <td>4月28日</td> <td>記事4導入・記事3読解</td> <td>記事2漢字語彙</td> <td>記事4</td> </tr> <tr> <td>5月5日</td> <td>こどもの日</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5月12日</td> <td>記事5導入・記事4読解</td> <td>記事3漢字語彙</td> <td>記事5</td> </tr> <tr> <td>5月19日</td> <td>記事6導入・記事5読解</td> <td>記事4漢字語彙</td> <td>記事6</td> </tr> <tr> <td>5月26日</td> <td>記事6読解・復習</td> <td>記事5漢字語彙</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>6月2日</td> <td>中間テスト(記事1～5))</td> <td></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>6月9日</td> <td>記事7導入・中間テストFB</td> <td>記事6漢字語彙</td> <td>記事7</td> </tr> <tr> <td>6月16日</td> <td>記事8導入・記事7読解</td> <td>中間テスト漢字語彙</td> <td>記事8</td> </tr> <tr> <td>6月23日</td> <td>記事9導入・記事8読解</td> <td>記事7漢字語彙</td> <td>記事9</td> </tr> <tr> <td>6月30日</td> <td>記事10導入・記事9読解</td> <td>記事8漢字語彙</td> <td>記事10</td> </tr> <tr> <td>7月7日</td> <td>記事11導入・記事10読解</td> <td>記事9漢字語彙</td> <td>記事11</td> </tr> <tr> <td>7月14日</td> <td>記事11読解・復習</td> <td>記事10漢字語彙</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>7月21日</td> <td>期末テスト(記事6～11・漢字6～10+中間テスト)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7月28日</td> <td>期末テストフィードバック</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	日付		小テスト	宿題	4月7日	ガイダンス・記事1	漢字実力テスト	記事1	4月14日	記事2導入・記事1読解		記事2	4月21日	記事3導入・記事2読解	記事1漢字語彙	記事3	4月28日	記事4導入・記事3読解	記事2漢字語彙	記事4	5月5日	こどもの日			5月12日	記事5導入・記事4読解	記事3漢字語彙	記事5	5月19日	記事6導入・記事5読解	記事4漢字語彙	記事6	5月26日	記事6読解・復習	記事5漢字語彙	なし	6月2日	中間テスト(記事1～5))		なし	6月9日	記事7導入・中間テストFB	記事6漢字語彙	記事7	6月16日	記事8導入・記事7読解	中間テスト漢字語彙	記事8	6月23日	記事9導入・記事8読解	記事7漢字語彙	記事9	6月30日	記事10導入・記事9読解	記事8漢字語彙	記事10	7月7日	記事11導入・記事10読解	記事9漢字語彙	記事11	7月14日	記事11読解・復習	記事10漢字語彙	なし	7月21日	期末テスト(記事6～11・漢字6～10+中間テスト)			7月28日	期末テストフィードバック		
日付		小テスト	宿題																																																																						
4月7日	ガイダンス・記事1	漢字実力テスト	記事1																																																																						
4月14日	記事2導入・記事1読解		記事2																																																																						
4月21日	記事3導入・記事2読解	記事1漢字語彙	記事3																																																																						
4月28日	記事4導入・記事3読解	記事2漢字語彙	記事4																																																																						
5月5日	こどもの日																																																																								
5月12日	記事5導入・記事4読解	記事3漢字語彙	記事5																																																																						
5月19日	記事6導入・記事5読解	記事4漢字語彙	記事6																																																																						
5月26日	記事6読解・復習	記事5漢字語彙	なし																																																																						
6月2日	中間テスト(記事1～5))		なし																																																																						
6月9日	記事7導入・中間テストFB	記事6漢字語彙	記事7																																																																						
6月16日	記事8導入・記事7読解	中間テスト漢字語彙	記事8																																																																						
6月23日	記事9導入・記事8読解	記事7漢字語彙	記事9																																																																						
6月30日	記事10導入・記事9読解	記事8漢字語彙	記事10																																																																						
7月7日	記事11導入・記事10読解	記事9漢字語彙	記事11																																																																						
7月14日	記事11読解・復習	記事10漢字語彙	なし																																																																						
7月21日	期末テスト(記事6～11・漢字6～10+中間テスト)																																																																								
7月28日	期末テストフィードバック																																																																								
方法と種類	<p>1回の授業の内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前の週に学習した漢字や語彙、表現についての簡単な確認テスト 2. 新しい記事の見出しの穴埋め・背景説明(記事2つ～3つ) 3. 前の週に配った新聞記事の読解練習 4. (時間があれば)内容に関するディスカッション <p>配られた新聞記事を読み、質問の答えを書いてくることを宿題にする。</p>																																																																								
教材	プリントで配布する。																																																																								
成績評価の基準および方法	<p>平常点(授業への参加度・小テスト・宿題)……10%</p> <p>中間試験……40%</p> <p>期末試験……50%</p>																																																																								
留意点	※ この授業は2クラスとの合同授業です																																																																								

クラス名	日本語A
対象	2クラス (Level 2)
講師名	増倉 洋子
クラスの目標	<p>専門的、あるいは時事的な内容について理解し、要約したり意見を述べたり、ディスカッションができることを目指します。「聞く・話す・読む・書く」の言語の4技能をバランスよく伸ばし、コミュニケーション能力を身につけます。日本語でのコミュニケーションに必要な幅広い知識や情報を得るために一般常識やニュース、伝統文化などを題材に日本語を学びます。N2合格レベルの日本語力を見につけることを目標とします。</p> <p>文型・文法項目：N2の文型・文法事項、漢字1500、語彙5000</p>
スケジュール 方法と種類	
教材	「総合日本語」「コンテンツとマルチメディアで学ぶ日本語 上級へのとびら」 その他は科目によって異なります。詳細はシラバス集を参照してください。
成績評価の基準および方法	<p>5)の時間割にある「日本語」は必修です。「日本語」以外の科目から9単位選択します。各科目の点数を平均して評価します。</p> <p>※ 文法＋読解＋聴解＋漢字語彙＋作文＋話し方の平均点を以下の基準で評価し、日本語の成績を出します。 S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)</p>
留意点	

読解	
クラスの目標	日本語の文章を速く、たくさん読めるようになる。
スケジュール	<p>第2回～第5回 ショートショート 第6回 昔話 第7回～第14回 古畑任三郎ノベライゼーションより ※ 第1回は担当者が違う</p>
方法と種類	キーワードの意味を確認し、これから読む物を導入。うちで読んで質問シートに答えを記入し、教室で確認する。
教材	『ショートショートの花束』より抜粋「ねずみのすもう」『古畑任三郎2』より「中川外科部長のコート」
成績評価の基準および方法	授業への参加度10%、期末試験90%
留意点	日本語を読む楽しみを味わう

口頭表現	
クラスの目標	下記(かき)の学習到達(とうたつ)の5つの目標が達成(たっせい)できるようになることです。
スケジュール	
方法と種類	<p>話す事について理解し、苦手意識(にがていしき)がなくなるような授業をします。 気軽に話せることから少しずつ難度(なんど)を上げた演習をします。 具体的には「クラスメートとの対話」と「独話(どくわ)」、ミニディベート、ミニドラマ、台本(だいほん)のあるドラマを体験します。そして、クラス全体で一つのドラマを作り、他のクラスの皆に見てもらいます。話すテーマは皆さんにとって身近なものです。発表したり、議論(ぎろん)したり、演劇(えんげき)をすることによって、日本語らしい表現を知ったり、緊張(きんちやう)しない日本語が話せるようになることを体験してください。 実際にやってみる事で難しさや面白さが実感でき、気がつくと言葉が楽になる自分に気づくでしょう。</p>
教材	授業で配布(はいふ)します。
成績評価の基準および方法	スピーチ:20点、ミニディベート:20点、シナリオのあるドラマ:20点、インプロ:20点 チームワーク:20点、計 100点
留意点	

聴解	
クラスの目標	ニュースや報道番組を聴いて内容を理解し、発表する。漢字語句の知識を深める。
スケジュール	1週間1回、90分の授業と課題(毎日ニュースを聞いて関心のあるニュースを見つける・漢字語句を覚える)
方法と種類	1週間に90分の授業でその週のニュース一つを取りあげ、深く正確に聞く指導を行う。課題として1週間のニュースを聞き、特に関心のあるニュースについて発表する。
教材	毎週の生のテレビニュース
成績評価の基準および方法	毎週行う漢字テスト(20%)、毎週の課題発表(30%)、最終のリスニングテスト(50%)の成績で評価する。
留意点	社会・文化的知識を高め、語彙を増やし、自分の意見を発表できる力を身につける。

クラス名	文章表現 I A
対象	2クラス (Level 2)
講師名	増倉 洋子
クラスの目標	<p>上級Ⅱクラスは、日本語能力試験N2レベルに相当するクラスである。約800時間前後の学習を経て、抽象語彙及び、それを使った文章表現はかなり正確にできるはず、であると考えられるが、テストの意見文一つとっても、日本語としてかなり不正確な部分が多い。また、そこで使用されている語彙についても、初中級レベルのものが多用され、中級後期で、獲得されていると思われる語彙はほとんど使用されていない。つまり、獲得されているはずの語彙を、アウトプットすることができていない。そこで、「Ⅱクラス文章表現」では語彙・文章表現のアウトプットに関して以下の二つのことを目的にする。</p> <p>①中上級の語彙が多く使用できるようにする ②目的に応じた文章が書ける。</p>
スケジュール	<p>スケジュールに関しては、授業の1か月以内の「天声人語」+『留学生のための論理的な文章表現の書き方』改訂版:スリーエーネットワークの課の順番に従って進める。</p>
方法と種類	<p>①に関しては、「朝日新聞デジタル」から、最新のもの・学生の興味を引きそうなものを選び以下のような方法で学習したい。</p> <p>例 (天声人語)シェアするという文化 Aシェアハウスという言葉を知ったのは、4.5年前だろうか。住んだことのある女性に聞いた。「舌を鳴らす音が覚めるんです。一戸建てに女性十数人。トイレや洗面所は一緒に使って、朝は早い人が有利だ。ほかの人より遅くなった人は悔しくやしがらる▼共同生活は大変だと思ったものだ。しかし、その後の広がりには本当にびっくりする</p> <p>B 舌打ち 早い者勝ち 後れを取る 耳にする 共用 目をみはる C答 シェアハウスという言葉を知ったのは4.5年前だろうか。住んだことのある女性に聞いた。「舌打ちの音で目が覚めるんです」。一戸建てに女性十数人。トイレや洗面は共用で、朝は早い者勝ちだ。後れを取った人は悔しがらる▼共同生活は大変だと思ったものだ。しかし、その後の広がりには目をみはる。簡単な語彙の文Aを読んで、Bから語彙を選びCの文に書き直すという作業だ。これを平易な文から難易度の高い文に順に練習してみようと思う。(語彙テストも何らかの形で毎回行いたい。)また、この記事に対して様々な意見がでて、それを文章化するのも面白いと思う。</p> <p>②『留学生のための論理的な文章表現の書き方』改訂版 スリーエーネットワークからプリントアウトしたもののレポート指導の前段階として、ほぼ全冊の内容を学習する。「普通体」「自他」「は」と「が」「名詞化」等作文に重要ないくつかの文法事項を先行して教え、その後レポートを書くための論理展開や表現のモデルを学習しながら、それを参考に各課の作文課題に取り組ませる。取り組むべきテーマは「引用の仕方」「段落」「歴史的な経過の説明」「分類」「定義」「比較対象」「因果関係」「要約」で、授業の方法としては、授業中に各テーマの表現モデルを学習し、そのモデルに従って作文を書くことを次週までの宿題とする。宿題の採点方法としては、言語面の間違ひのマイナスは小さく、構成等(「です・ます」体との混同、段落分け、序論・本論・結論の存在、論の展開の一貫性)に関して厳しく減点する。</p>
教材	<p>「朝日新聞デジタル版から」『留学生のための論理的な文章表現の書き方』改訂版 スリーエーネットワークからプリントアウトしたもの</p>
成績評価の基準および方法	<p>評価: 中間テスト(天声人語の問題+「比較対象・600字作文」30% 期末(天声人語の問題+定義作文800字)30% 小テスト+6トピック分の作文20% 出席20%</p>
留意点	

対象	1クラス、2クラス(Level 1,2)
講師名	山田正志
クラスの目標・目的	現代日本の政治にかかわる基本的な概念・用語、および知識を習得する。
スケジュール	
方法と種類	<p>1. 内容 日本国憲法の諸問題、国会、国会議員、内閣、行政組織、選挙、政党、政権交代、</p> <p>2. 方法 講義形式による</p> <p>★ 学部進学クラスとの合同</p>
教材	<p>1. 東海大学別科テキスト『日本の社会・政治・経済』のうち、「政治」編</p> <p>2. その他、必要に応じて、新聞記事などを使用する</p>
成績評価の基準および方法	<p>定期試験および出席・授業態度 試験70%、出席等30%</p>
留意点	

クラス名	文章購読A
対象	2クラス (Level 2)
講師名	北村よう
クラスの目標	日本語の文章を速く、たくさん読めるようになる。
スケジュール	第2回～第5回 ショートショート 第6回 昔話 第7回～第14回 古畑任三郎ノベライゼーションより ※ 第1回は担当者が違う
方法と種類	キーワードの意味を確認し、これから読む物を導入。うちで読んで質問シートに答えを記入し、教室で確認する。
教材	『ショートショートの花束』より抜粋「ねずみのすもう」『古畑任三郎2』より「中川外科部長のコート」
成績評価の基準および方法	授業への参加度10%、期末試験90%
留意点	日本語を読む楽しみを味わう

クラス名	音声表現IA
対象	2クラス (Level 2)
講師名	宮城 幸枝
クラスの目標	私たちは音声によって、文の構造や、気持ち、感情、意図などの様々な情報を伝えています。音声表現が上手にできないと、聞き手に理解してもらえず、誤解されてしまうこともあります。この授業では音声言語としての日本語に焦点を当て、音声によって上手にコミュニケーションを行う方法を指導します。同時に話し言葉特有の表現形式についても学びます。
スケジュール	毎週1回の日本語の音声言語についての講義と発音指導と会話・モノローグの自宅学習課題。
方法と種類	<p>1. まず、最初にリズム、アクセントやイントネーションなど、日本語の音声表現システムのルールについて学びます。そして、以下のようないろいろな音声コミュニケーションの素材を教材として、表現の仕方を学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①モノローグ・・・ チャンクの区切り方、イントネーションの付け方 ②スピーチ、意見発表・・・ 声の強弱、ポーズの長さ、位置 ③会話・・・声質、丁寧さの表現、文末イントネーション、強度強調の方法 <p>2. 上記の表現を学ぶ中で、個々の発音を文全体のイントネーション、リズムといった マクロな視点から個々の発音について指導します。</p> <p>3. 話し言葉に特有な表現について学びます。</p> <p>以上をオーバーラッピング、リピーティング、シャドーイング等を行いながら学びます。会話やモノローグの自然な音声表現ができるようにトレーニングを課題とし、毎回成果を録音し、提出してもらいます。この授業の成果を確認するため、最終課題として自己紹介を行います。</p>
教材	<ul style="list-style-type: none"> ①『Shadowing 日本語を話そう!』 ②中級日本語聴解教材『毎日の聞きとり50日 上・下』 ③ドラマ・アニメ・トーク番組(録音) ④その他プリント教材
成績評価の基準および方法	毎回授業時に行うテスト、最終発表によって、評価する。
留意点	

クラス名	日中比較研究A
対象	1クラス、2クラス (Level 1&2)
講師名	宮城 幸枝・森山 美紀子
クラスの目標・目的	この授業では、主に「話す、聞く、書く」力を身につけることを目標とします。到達目標は以下の通りです。より具体的には「授業スケジュール」をご覧ください。「結果」欄に、S～Eの評価を記入して客観的に自分の実力を確認し、学習方法を点検・改善しましょう。
スケジュール	<p>第1回 授業説明: 授業の目的とルール・アンケート・要望聞き取り、日本語の会話想定練習(使える表現の復習)</p> <p>第2回 前半: 授業の目的とルール説明 後半: メンバー顔合わせ、グループワークで自己紹介準備</p> <p>第3回 前半: 自己紹介発表と質疑応答 後半: 次回のグループワークの準備</p> <p>第4回 グループワーク①-1 準備「日・中台の歌とゲームの紹介」 前半: 日・中台のグループで話し合い、作業 後半: (学習言語でも説明できるようにするため)日・中台混成のグループになり、学習言語発表の準備</p> <p>第5回 グループワーク①-2 本番 歌とゲームの紹介</p> <p>第6回 グループワーク②-1 準備「グループ会話」テーマ決め グループに分かれ、準備</p> <p>第7回 グループワーク②-2 本番 前半: グループ会話・質問の練習 後半: メンバーをチェンジしグループ会話・質問</p> <p>第8回 前半: グループメンバーの内容紹介の準備 後半: グループメンバーの内容を全員の前で学習言語で紹介</p> <p>第9回 前半: これまでの授業の振り返りを行う 学習言語チェック 後半: グループ会話練習</p> <p>第10回 グループ発表準備(1) 全体でのテーマ選定、グループ決め、準備開始</p> <p>第11回 グループ発表準備(2)</p> <p>第12回 グループ発表準備(3)</p> <p>第13回 グループ発表準備(4)</p> <p>第14回 グループ発表 リハーサル・修正</p> <p>第15回 グループ発表 本番 グループ発表に対し採点・評価 自己評価・振り返り用紙配布</p>
方法と種類	<p>この授業は、別科日本語研修課程の中国・台湾からの留学生と中国語を学ぶ日本人学生が合同授業を通じて、生きた日本語と中国語会話を学ぶ授業です。ペアワークやグループワーク、発表などを通じ、互いの学習言語を学び合うと同時に、中国・台湾・日本の文化・風俗習慣などへの理解を深めます。</p> <p>この授業の対象者は、日本人との交流に意欲的な学生です。授業を通じ、日本人とのコミュニケーションが可能な会話力を身につけることを目標とします。授業では、自己紹介表現を復習することから始め、日本と中国の文化比較などに関するテーマも扱います。毎回の授業課題をこなしていくことにより、日本語で自らの情報を積極的に発信し、より多くの情報を受信できる日本語運用能力と、既定の目標レベルに到達するための挑み力(プランニング力)や成し遂げ力(実行と継続力)を養っていきます。</p>
教材	<p>学習到達度チェック表 準備作業への取り組み方、発表時のパフォーマンス、中間試験・期末試験がチェック対象。 以下の項目を { S ほぼ完璧に A 7割以上 B 半分以上 C どうか }でできる、E できない でチェック。</p> <p>到達目標 結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 準備した中国語の文章を辞書を使い日本語に訳すことができる 2 日本人に日本語で簡単な質問ができ、日本人の回答を聞き取ることができる 3 日本人の日本語による質問を聞き取ることができ、簡単な回答ができる 4 準備すれば自分の言いたいことを正確な日本語で発話することができる 5 事前に原稿を暗記し、授業の発表時に聞き取りやすい日本語でスピーチできる 6 日本人に中国語の語彙や文法、正確な発音やイントネーションを上手く教えることができる 7 教室活動の準備時間や授業時間以外にも、言語を問わず自ら積極的に留学生に話しかけ、日本語或いは中国語で情報交換をする意欲が見られる <p>成績評価は全体の3分の2の出席があることを前提に行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習到達度チェック表の1～6の項目について、準備作業への取り組み方、課題のパフォーマンスに基づき、{ S ほぼ完璧に A 7割以上 B 半分以上 C どうか }でできる、E できない をもとに点数化(100点満点)に換算し、平均点を出す。 2. 欠席は2点、遅刻は1点、授業中に注意を受けた等問題があった場合は1点とし、1の平均点からマイナスする。課題を実施していない、或いは提出していない場合も減点する。 3. 1と2の合計点に基づき、S(90点以上)、A(80～89点)、B(70～79点)、C(60～69点)、E(59点以下)で成績評価を行う。途中から授業に出席しなくなった場合などは/とする。
留意点	<ol style="list-style-type: none"> ① 欠席せず、学習したことは必ず復習しましょう。 ② 授業には必ず日本語辞典を携行してください。 ③ この授業は日本人との共同作業が主体となるので、授業には遅刻、早退、無断欠席をしないようにしてください。やむを得ず欠席する場合は、事前に教員もしくはクラスメートに連絡してください。(担当教員メールアドレス: meijizi@nte.biglobe.ne.jp) ④ 各自の学習状況について、授業スケジュール表にある「自己チェック」「振り返りチェック」と、上の「学習到達度チェック」で主観的・客観的に確認しましょう。到達度が低い場合は、予習・復習・授業でのノートの取り方などに問題がある可能性がありますので、適宜担当教員に相談し、自分の学習方法を改善していきましょう。

クラス名	プロジェクト入門A
対象	1クラス、2クラス (Level 1,2)
講師名	結城健太郎
クラスの目標・目的	日本人と一緒に計画・発表する力を身につけます。旅行を計画しながら、日本の地理・社会について知り、日本人の考え方を学びます。日本語で話し合い、意見を言うことができるようになります。
スケジュール	第1回: グループを作り、自己紹介をします。 第2回: 旅行する人 第3回: 旅行の目的 第4回: 旅行の目的 第5回: 旅行に必要なもの 第6回: プレゼンテーション 第7回: 旅行する場所 第8回: 旅行する場所 第9回: 旅行の日程 第10回: 旅行の日程 第11回: プレゼンテーション 第12回: 再検討 第13回: トラブルについて 第14回: トラブルについて 第15回: プレゼンテーション
方法と種類	日本人の学生とグループを作り、外国人向けの日本旅行を計画します。 (1)旅行する人、目的を考えます。 (2)旅行に必要なもの(お金、ビザなど)を考えます。 (3)旅行する場所・方法・日程を考えます。 (4)トラブル(事故、病気)について考えます。 (1)から(4)を日本語で話し合い、分担して調べます。レポートを書き、パワーポイントで発表します。
教材	教科書はありません。プリントを配ります。
成績評価の基準および方法	出席と参加の評価が50%、レポートとプレゼンテーションの評価が50%です。
留意点	

クラス名	口頭表現A
対象	1クラス、2クラス (Level 1, 2)
講師名	斉木ゆかり
クラスの目標・目的	下記(かき)の学習到達(とうたつ)の5つの目標が達成(たっせい)できるようになることです。
スケジュール	
方法と種類	<p>話す事について理解し、苦手意識(にがていしき)がなくなるような授業をします。 気軽に話せることから少しずつ難度(なんど)を上げた演習をします。 具体的には「クラスメートとの対話」と「独話(どくわ)」、ミニディベート、ミニドラマ、台本(だいほん)のあるドラマを体験します。そして、クラス全体で一つのドラマを作り、他のクラスの皆に見てもらいます。話すテーマは皆さんにとって身近なものです。発表したり、議論(ぎろん)したり、演劇(えんげき)をすることによって、日本語らしい表現を知ったり、緊張(きんちょう)しないで日本語が話せるようになることを体験してください。 実際にやってみる事で難しさや面白さが実感でき、気がつくと話すことが楽になる自分に気づくでしょう。</p>
教材	授業で配布(はいふ)します。
成績評価の基準および方法	スピーチ:20点、ミニディベート:20点、シナリオのあるドラマ:20点、インプロ:20点 チームワーク:20点、計 100点
留意点	

クラス名	映像と文化
対象	2クラス (Level 2)
講師名	宮城幸枝
クラスの目標・目的	① ニュースを聞いて、現在の日本の社会・文化事情を知る。 ② ニュースの談話の特徴を知り、聞いて理解する力をつける。 ③ 文のリピートやシャドーイングを行い、日本語の語順に慣れ、正確な発音を身につける。 ④ 漢字語句の知識を増やす。
スケジュール	
方法と種類	① 1週間のニュースを聞いてきて、気になったニュースを発表しあう。意見を交換する。 ② 新しいニュースの聞き取り。聞き方を学ぶ。 ③ 新しいニュースの書き取り。自分の弱点を発見する。
教材	
成績評価の基準および方法	出席点20%、ニュースの発表の内容10%、宿題の提出20%、漢字テスト10% 期末テスト40% 期末テストの内容は、授業で聞いたニュースの内容を理解したかどうか、漢字語句を正確に読めるかどうか、新しいニュースを聞いて理解できるかについてテストする。
留意点	

クラス名	日独比較研究 A
対象	1クラス、2クラス (Level 1, 2)
講師名	佐原 雅通
クラスの目標・目的	<p>①日本語の正確な理解力と日本語の表現能力を高めることに主眼を置く。教材として、ドイツ語のインターネットからニュース記事を使用する。 内容的には、政治、経済、社会、技術、医学、文化等の分野から、日独が共通して直面するアクチュアルなテーマを扱う。日独の現代事情と並んで、日独の文化的な背景の差異についても考察する。</p> <p>②日本の文学作品もテキストとして扱う。文学作品の日本語の微妙なニュアンスを正確に理解することにも重点を置く。</p>
スケジュール	
方法と種類	<p>①日本語訳の練習 (1)毎週、ドイツ語のインターネットからニュース記事を選んでプリント配布。 (2)単語の日独対照リストを作成。 (3)日本語の単語の読み方、意味を確認。 (4)順番に逐語訳の練習をする。 宿題: 毎週、日独対照リストを参考に、ドイツ語のニュース記事を日本語に訳して提出する。</p> <p>②ドイツ語訳の練習 (1)村上春樹の文学作品とドイツ語の翻訳をコピーして配布する。 (2)村上春樹の文学作品を正確に理解し、ドイツ語の翻訳と比較する。 (3)翻訳の正誤を検討する。 宿題: 毎週、担当者を決める。担当者は授業で検討したドイツ語訳を翌週に提出する。</p>
教材	<p>①ドイツ語 → 日本語 : インターネットサイトのドイツ語ニュース。 ②日本語 → ドイツ語 : 村上春樹の短編作品。 「4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて」 「レーダーホーゼン」</p>
成績評価の基準および方法	学期末に提出するレポートの成績、①、②に関連した宿題の内容、そして平常点を総合して成績評価を行なう。
留意点	

クラス名	日韓比較研究ⅡA
対象	1クラス、2クラス (Level 1, 2)
講師名	阿部 由美子
クラスの目標・目的	<p>1)文化的・言語習得上の視点</p> <p>韓国に関心を持つ日本人学生と日本語・韓国語を媒介として共同で討論や発表などを行い、日本の社会や文化を韓国と比較しつつ学ぶ姿勢を身につける。また、言語学習にもそれを活かし、母語としての韓国語と学習言語としての韓国語の違いを意識し、パートナーとなった日本人学生の韓国語能力の向上に主体的に取り組む。</p> <p>2)交流の視点</p> <p>同年代の学生とのコミュニケーションを通じて日本語による発信能力を高め、同時に現代的な口語に接する機会とする。</p>
スケジュール	
方法と種類	<p>授業は学部の「コリア語会話中級」履修者との合同で、毎回グループ活動で行う。</p> <p><前半>ディスカッション(韓国語と日本語のセッションに分けて行う) 毎回、日韓双方の教員が提供する日本語・韓国語の会話資料をもとに、あるテーマでグループ討論を行う。その中で互いの母語について教えあう。また、毎回、授業の感想や新たに学習したこと、疑問点などを日本語で評価シートにまとめて提出、教員との意思疎通を図る。</p> <p><後半>プレゼンテーション グループごとに主題を決めて日韓文化比較を行い、PPTを使ってクラスで発表する。その準備の過程で互いに母語表現を教えあい、発音指導も充分行う。発表内容については双方の言語でハンドアウトを作成する。さらに発表後、どのように準備したか、各自の発表内容などについて個人報告書を作成して提出する。</p>
教材	特に指定しない。毎回教員が作成したプリント教材使用。
成績評価の基準および方法	<p>出席点:30%・前半の報告書20%・プレゼンテーション30%・プレゼンの報告書20%</p> <p>授業中の活動が主となるので、出席と授業中の参加態度を重視する。授業・交流活動への貢献が重要で、①発展的な討論になるようにどのような意見を出したか、②自分の発表だけでなくグループの発表にどれだけ協力したか、③日本人学生の韓国語指導をどのように行ったか、なども評価シートや個人報告書を通じて評価する。</p>
留意点	教員の講義を受動的に学ぶ授業ではないので、能動的に授業に参加し、よりよい授業・時間にしようという積極的な姿勢が求められる。討論が停滞すれば自らの発言で活性化を図り、またグループ全体の協働と発展という視点を持って、活動に活発に参加してほしい。

クラス名	日露比較研究A
対象	1クラス、2クラス (Level 1, 2)
講師名	近藤 喜重郎
クラスの目標・目的	(1) 日本語の理解度と表現力を高めることに主眼を置く。 (2) 日本とロシアの暮らし・文化についてテキストを読み、また発表することを通して互いの文化を比較し、その類似について理解を深める。
スケジュール	
方法と種類	(1) 前半と後半とで内容と方法が分かれる。 (2) 前半では上記プリントを使用して露文和訳を行う。毎回、一定量のロシア語テキストを日本語に訳すことが宿題として課される。宿題は次の授業で発表され、誤りがある場合にはそれが正される。 (3) 前半の途中と最後に小試験を行う。試験内容は、授業で使ったテキストの範囲内での露文和訳である。 (4) 後半では、10分間の日本語によるプレゼンテーションを行う。毎回、2名の学生に日本語とロシア語によるプレゼンテーションの準備が宿題として課される。宿題は次の授業で発表される(日本語のみ)。発表者以外の学生はそれを聞き、その評価を日本語とロシア語で書いて発表する。プレゼンテーションの原稿と評価の用紙は授業後に提出され、日本語に誤りがある場合には、それが正されて次の授業で返却される。
教材	(1) 授業プリントを用いる (2) 授業プリントは、日本とロシアの暮らし・文化を紹介する学生向けロシア語教材、外国人のためのロシア語検定 試験(B2-C1レベル)の読解問題、インターネットサイトの記事から作成する。 <教材として使用する文献> ・ 佐藤靖彦『ロシア語作文・日本の四季——和文露訳の試み』新読書社 ・ Теремова Р.М., Гаврилова В.Л. Актуальный разговор: чем живет человек: Учебное пособие по русскому языку для иностранцев. СПб. «Коста», 2005. ・ Учебное-тренировочные тесты по русскому языку как иностранному. Выпуск 2. Чтение: учебное пособие / под общ. ред. М.Э. Парецкой. - 4-е изд. СПб. «Златоуст», 2002. ・ その他ロシアで出版されたロシア語教科書およびインターネットサイトの記事など
成績評価の基準および方法	(1) 平常点(授業態度、出席状況など)20% (2) 課題30%(前半の翻訳10%、後半のプレゼンテーション10%、その評価10%) (3) 小試験20% (4) 期末試験30%
留意点	授業は日本語で行う。

クラス名	日本の経済事情A①
対象	1クラス (Level 1)
講師名	山田正志
クラスの目標・目的	現代日本の経済にかかわる用語・課題・事情について把握し、理解を深めること
スケジュール	
方法と種類	<p>1. 内容 日本経済の軌跡、日本の産業、政府と経済、金融と財政、バブル経済と崩壊、リーマンショックと日本経済、その他</p> <p>2. 方法 講義形式を主とする。</p> <p>★ 学部進学クラスとの合同</p>
教材	1. 東海大学別科テキスト『日本の社会・政治・経済』のうち、「経済」編
成績評価の基準および方法	<p>定期試験および出席・授業態度 試験70%、出席等30% (定期試験はレポートによる)</p>
留意点	

2014年度 春学期 日本語別科 3クラス シラバス

クラス名	3クラス (Level 3 中級)
クラスの目標	1)N2レベルの日本語力を身につける。 2)漢字の言葉をたくさん読めるようになる。 3)身の回りのことだけでなく、もっと難しいことをテーマにして話したり書いたりできるようになる。 4)クラスで協力し合って日本語を使ったコミュニケーションを活発に行う。
学習する文型項目・語彙・漢字数	文型・表現項目:約170個、語彙:約1900個、漢字読み:約240語(漢字書き:約180語)

文章表現 授業シラバス	
クラスの目標	常体を用いて、要約文、グラフ解説文、レポート、意見文が書けるようになる
スケジュール	4/10 正書法・文章構成練習 PC 4/17 文章要約練習 4/24 ★文章要約練習 PC 5/1 ★第1回口頭要約課題 (クラスワーク) 5/8 グラフ解説文 ★課題提出PC 5/29 プレゼン2スライド作りPC 6/12 ★プレゼンレポート作成 PC 6/26 ★スピーチ原稿入力 PC 7/10 ★意見文 PC 7/17 ★文章表現定期試験 PC
方法と種類	スケジュールを参照
教材	「日本語中級表現」とそれに付随する自主作成教材
成績評価の基準および方法	文章要約10%、 グラフ解説文10%、レポート20%、スピーチ原稿10%、 意見文10%、定期試験(要約15% 意見文25%)
留意点	口頭表現・文章表現を連動させて進める

読解 授業シラバス	
クラスの目標	1)意見文・説明文などのさまざまなテキストタイプを読むことができる。 2)文構造、段落ごとの内容を理解し、大意がとれる。 3)速読・精読・多読をおこなうことができる。
スケジュール	1) 多読練習1(日本語の小説) 2) 多読練習2(日本語の小説)、N1、2級レベル読解問題(短文) 3) N1、2レベル読解問題(短文、中文) 4) N1、2レベル読解問題(短文、中文) 5) N1、2レベル読解問題(文構造をつかむ、短文、中文) 6) N1、2レベル読解問題(連体修飾、短文、中文) 7) 速読練習1、N1、2レベル読解問題(短文、中文) 8) 速読練習2、N1、2レベル読解問題(短文、中文) 9)速読練習3、N1、2レベル読解問題(短文、中文、長文) 10)速読練習4、N1、2レベル読解問題(短文、中文、長文) 11)速読練習5、N1、2レベル読解問題(短文、中文、長文) 12)速読練習6、N1、2レベル読解問題(短文、中文、長文) 13)速読練習7、N1、2レベル読解問題(短文、中文、長文) 14)ピアリーディング1、多読練習3 15)ピアリーディング2、多読練習4
方法と種類	1)精読・速読・多読 2)スキミング・スキニング練習 3)ピア活動による読解
教材	『中・上級者のための速読の日本語』『試験に出る読解』『日本語能力試験問題集読解スピードマスター』『日本語能力試験対策問題&要点整理 読解言語知識』から適宜抜粋

成績評価の基準および方法	中間テスト40%+期末テスト50%+まとめテスト10% 中間テスト:精読90分100点 定期試験:速読15分20点・精読75分80点
留意点	2課ごとのまとめテスト(読解100点満点10回分)を10%換算して総合成績に加味する

話し方 授業シラバス	
クラスの目標	公的な場の話し言葉を用いて、要約発表、プレゼン、スピーチ、ディベートができるようになる
スケジュール	4/9 授業ガイダンス 4/16 口頭・文章要約 口頭・文章要約 4/23 口頭・文章要約 口頭・文章要約 4/30 グラフ解説導入 口頭・文章要約 課題の準備 5/7 グラフ解説練習 グラフ解説練習 5/14 プレゼン1準備 プレゼン1準備 5/21 プレゼン1準備 プレゼン1ポスター発表 5/28 プレゼン2インビュ プレゼン2準備 6/4 プレゼン2準備 プレゼン2準備 6/11 ☆プレゼン発表 6/18 スピーチ導入 第3回口頭要約課題準備 6/25 スピーチトライアル練習 スピーチトライアル練習 7/2 ☆クラス内スピーチ 7/9 ディベート導入 ディベート練習 7/16 定期試験説明、ディベート ディベート
方法と種類	スケジュールを参照
教材	「日本語中級表現」とそれに付随する自主作成教材
成績評価の基準および方法	口答要約発表10%×3回、プレゼン15%、スピーチ15%、定期試験(グラフ解説20% 意見と質疑20%)
留意点	口頭表現・文章表現を連動させて進める

聴解 授業シラバス	
クラスの目標	1)身近な話題についての話・会話が聞き取れ、内容が理解できる。 2)基本的な漢字語彙の入ったニュースなどの独話が聞き取れ、内容が理解できる。 3)聞きながらメモをとることができる。
スケジュール	月曜: 1)先生への手紙 2)ノートテイキング「ノートテイキングとは、キーワードをつかむ」 3)防災訓練について ノートテイキング「質問をよく聞く」 4)防災訓練の感想 学科説明の情報交換 コミュニケーション・ストラテジー 5)歌舞伎見学の説明 6)コミュニケーションストラテジー-2、回転寿司、歌舞伎見学の確認、ノートテイキング「整理してメモする:宗教建築」、小作文 7)ノートテイキング「4つの力」小作文「私が勉強したい学科の説明」 8)ノートテイキング「面接のために1」(どうして東海大学?学科の説明) 9)コミュニケーションストラテジー、回転寿司、ディベート、ドラマ 10)ノートテイキング「面接のために2」(大学で勉強したいことと将来の夢、先生への質問) 11)ノートテイキング「面接のために3」面接練習1 12)ノートテイキング「面接のために4」面接練習2 13)ノートテイキング 最終試験のための模擬練習

	<p>木曜:</p> <p>1) 第21課「回転寿司」 2) 第22課「郵便局からのお知らせ」 3) 第23課「名前のない手紙」 4) 第24課「あなたの成績は朝ごはん次第」 5) 第25課「自身に強いビル」 6) 第26課「いちばん上の子は神経質？」 7) 第27課「結婚するなら年上？年下？」 8) 第28課「太鼓のひびき」 9) 第29課「睡眠不足じゃありませんか」 10) 第30課「お菓子のおまけ」 11) 第31課「進化するロボット」 12) 第32課「人類はメン類」 13) 第33課「日本を知らない日本人」 14) 第34課「よみがえった日本の技術」 15) 第35課「若い登山家」</p>
方法と種類	<p>1) シャドーイング 2) 聴解練習 3) ディクトグロス</p>
教材	『毎日の聞き取り50日 plus 40(下)』『ニューアプローチ日本語中級完成編』『聞き取りの貯金箱』『留学生のためのアカデミックジャパニーズ』、他に生教材(ニュースなど)
成績評価の基準および方法	<p>中間テスト40%+期末テスト50%+平常点10% 中間・定期試験内容: ディクテーション、ディクトグロス、内容選択、○×選択</p>
留意点	月曜の授業はノートテイキングを中心に行い、木曜の授業はテキストを使用した内容理解とシャドーイングを中心に行う

漢字 授業シラバス	
クラスの目標	1) N2~N1レベルの漢字を見て、意味が分かる。
スケジュール	<p>1課につき4回漢字テストを実施し、漢字語彙の定着を図る。1回の試験範囲は50語。 1課に1回カタカナ語のディクテーションテストも併せておこなう。 カタカナディクテーションに関してはLLの時間にパソコンを使って実施する。</p>
方法と種類	<p>1) 漢字語彙の読みテスト 2) カタカナ語彙のディクテーションテスト 3) 2課ごとのまとめのテスト</p>
教材	『ニューアプローチ中級日本語完成編』に出てくるすべての漢字語彙をリストアップした自作教材
成績評価の基準および方法	中間テスト40%+定期試験50%+課毎テスト10%
留意点	漢字語彙の読みを定着させるために、毎日の漢字テストは読み方のみを実施する。

2014年度 春学期 日本語別科 4クラス シラバス

クラス名	4クラス (Level 4 中級)
クラスの目標	(1) 日本語能力試験で3級～2級レベルの日本語力をつける。 (2) 辞書を引きながら簡単な日本語の文を読んだり聞いたりすることができる。 (3) 少し複雑な日常会話を続けることができる。簡単な手紙文などを書くことができる
学習する文型項目・語彙・漢字数	文型項目： 200 語彙 : 1600 漢字 : 800

作文 授業シラバス	
クラスの目標	1) 構成を考えたまとまりのある文章が書ける。 2) 書き言葉の表現を使い、普通体で文末をまとめることができる。
スケジュール	1) 自己紹介文 2) 自分の国の説明文 3) 自分の国の説明文リライト 4) 日本と自分の国の比較文のアウトライン作成 5) 日本と自分の国の比較文 6) 日本と自分の国の比較文リライト 7) グラフ解説文導入 8) グラフ解説文作成 9) グラフ解説文リライト 10) 意見文の表現導入 11) 意見文作成・スピーチコンテスト原稿 12) 意見文リライト 13) 手紙文・メール文 14) 比較文・グラフ解説文・意見文を使った総合練習 15) 定期試験準備
方法と種類	1) 説明文 2) 意見文 3) グラフ解説文
教材	自作教材・『ニューアプローチ中級日本語基礎編』
成績評価の基準および方法	課毎の要約20% + 中間テスト30% + 定期試験30% + 平常の提出物20% 評価基準： 1) 段落構成ができている。 2) 接続詞が使える。 3) 適切な漢字語彙が使える。
留意点	読解で実施している要約活動を作文の評価に含める。

読解 授業シラバス	
クラスの目標	1) 意見文・説明文などのさまざまなテキストタイプを読むことができる。 2) 段落ごとの内容を理解して、大意を要約できる。 3) 速読・精読・多読をおこなうことができる。

スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 1) 速読練習1 2) 速読練習2 3) 要約のしかたの練習 4) 速読要約1 5) 長文読解1 (GW中の宿題) 6) 速読要約2 7) 多読とは何か。多読をしてみよう。 8) テキストの要約解説・評価 9) 中間テスト解説 10) 長文読解2 11) ピアラーディング: 犯人はだれだ? 12) ピアラーディング: 物語の順番を考えよう 13) 長文読解3 14) NA3級の読解問題に挑戦 15) NA2級の読解問題に挑戦
方法と種類	<ul style="list-style-type: none"> 1) 精読・速読・多読 2) スキミング・スキヤニング練習 3) ピア活動による読解 4) 要約
教材	『ニューアプローチ日本語中級基礎編』
成績評価の基準および方法	<p>中間テスト35% + 期末テスト45% + まとめテスト20%</p> <p>中間テスト: 速読10分15点・精読80分85点</p> <p>定期試験: 速読15分20点・精読75分80点</p>
留意点	2課ごとのまとめテストの読解50点満点10回分を20%換算して総合成績に加味する

話し方 授業シラバス	
クラス目標	<ul style="list-style-type: none"> 1) 簡単な内容について意見を言ったり、質問したりできる。 2) 例を挙げて、相手にわかりやすく説明できる。 3) 構成を考えてまとまったスピーチができる。
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 1) 自己紹介 2) もう少し詳しい自己紹介 + 他者紹介 3) 会話文型・表現1「願望・希望」 4) 自分の国紹介 5) PPTを使った自分の国紹介 6) 会話文型・表現2「依頼」 7) 意見スピーチとは何か 8) 意見スピーチ練習 9) 会話文型・表現3「誘う・受ける・断る」 10) スピーチコンテスト練習 11) スピーチコンテスト予選 12) 会話文型・表現4「申し出る・感謝する」 13) グラフ解説の練習 14) 会話文型・表現5「提案・助言する」 15) 定期試験準備
方法と種類	<ul style="list-style-type: none"> 1) スピーチ 2) ロールプレイ 3) 日本人学生との対話
教材	『ニューアプローチ中級日本語基礎編』
成績評価の基準および方法	<p>中間試験(30%) + 定期試験(30%) + スピーチコンテスト(20%) + プレゼン(20%)</p> <p>評価基準:</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 話す量 2) 内容の質(あいづち、接続詞、語彙・文の正確さ) 3) 流暢さ

留意点	会話クラスには毎回日本人学生が1グループに1名ずつ授業支援で参加する。
-----	-------------------------------------

聴解 授業シラバス	
クラスの目標	1)身近な話題についての話・会話が聞き取れ、内容が理解できる。 2)基本的な漢字語彙の入ったニュースなどの独話が聞き取れ、内容が理解できる。 3)聞きながらメモをとることができる。
スケジュール	1)第1課「もしもし」 2)第2課「旗のデザイン」 3)第3課「海からの便り」 4)第4課「カラスのカー子ちゃん」 5)第5課「たためるピアノ」 6)第6課「日本人と果物」 7)第7課「待つ時間・待たせる時間」 8)第8課「震度3」 9)第9課「世界の人口」 10)第10課「牛丼の作り方」 11)第11課「ドライアイ」 12)第12課「日本の地方都市」 13)第13課「横断歩道」 14)第14課「弁当の日」 15)第15課「コンビニ図書館」
方法と種類	1)シャドーイング 2)聴解練習 3)ディクトグロス
教材	『新毎日の聞き取り50日』・『ニューアプローチ日本語中級基礎編』
成績評価の基準および方法	中間試験40点・定期試験60点を実施 ディクテーション、内容選択、○×選択
留意点	『ニューアプローチ日本語中級基礎編』の聴解ミニテストはLLの時間以外に授業中に実施することもある

漢字 授業シラバス	
クラスの目標	1)N3～N2レベルの漢字を見て、意味が分かる。 2)学習した漢字語彙が読める。
スケジュール	毎日漢字テストを実施し、漢字語彙の定着を図る。1回の試験範囲は50語。 毎回カタカナ語のディクテーションテストも併せておこなう。 書くテストに関してはLLの時間にパソコンを使って実施する。
方法と種類	1)漢字語彙の読みテスト 2)カタカナ語彙のディクテーションテスト 3)パソコンによる漢字語彙を選ぶテスト 4)2課ごとのまとめのテスト
教材	『ニューアプローチ中級日本語基礎編』に出てくるN4レベルの漢字をのぞくすべての漢字語彙をリストアップした自作教材
成績評価の基準および方法	中間テスト35%＋定期試験45%＋課毎テスト20%
留意点	漢字語彙の読みを定着させるために、毎日の漢字テストは読み方のみを実施する。

2014年度 春学期 日本語別科 5クラス シラバス

クラス名	5クラス (Level 5 中級/初中級)
クラスの目標	(1) 日本語能力試験でN3後半～N2前半レベルの日本語力をつける。 (2) 辞書を引きながら簡単な日本語の文を読んだり聞いたりすることができる。 (3) 少し複雑な日常会話を続けることができる。簡単な手紙文などを書くことができる
学習する文型項目・語彙・漢字数	文型項目： 200 語彙 : 1600 漢字 : 800

作文 授業シラバス	
クラスの目標	1) 構成を考えたまとまりのある文章が書ける。 2) 書き言葉の表現を使い、普通体で文末をまとめることができる。
スケジュール	1) 自己紹介文 2) 自分の国の説明文(文化の授業と連携) 3) 自分の国の説明文リライト 4) 日本と自分の国の比較文のアウトライン作成 5) 日本と自分の国の比較文 6) 日本と自分の国の比較文リライト 7) グラフ解説文導入 8) グラフ解説文作成 9) グラフ解説文リライト 10) 意見文の表現導入 11) 意見文作成・スピーチコンテスト原稿 12) 意見文リライト 13) 手紙文・メール文 14) 比較文・グラフ解説文・意見文を使った総合練習 15) 定期試験準備
方法と種類	1) 説明文 2) 意見文 3) グラフ解説文
教材	自作教材・『ニューアプローチ中級日本語基礎編』
成績評価の基準および方法	平常点(課ごとの要約・提出物)60% + 定期試験30%+文化10% 評価基準: 1) 段落構成ができている。 2) 接続詞が使える。 3) 適切な漢字語彙が使える。
留意点	読解で実施している要約活動と、文化の授業で実施した内容の報告書を作文の評価に含める。

読解 授業シラバス	
クラスの目標	1) 意見文・説明文などのさまざまなテキストタイプを読むことができる。 2) 段落ごとの内容を理解して、大意を要約できる。 3) 速読・精読・多読をおこなうことができる。
スケジュール	1) 速読練習1 2) 速読練習2 3) 要約のしかたの練習 4) 速読要約1 5) 長文読解1 (GW中の宿題) 6) 速読要約2 7) 多読とは何か。多読をしてみよう。 8) テキストの要約解説・評価 9) 中間テスト解説 10) 長文読解2 11) ピアラーディング: 犯人はだれだ？ 12) ピアラーディング: 物語の順番を考えよう 13) 長文読解3 14) NA3級の読解問題に挑戦 15) NA2級の読解問題に挑戦
方法と種類	1) 精読・速読・多読 2) スキミング・スキヤニング練習 3) ピア活動による読解 4) 要約
教材	『ニューアプローチ日本語中級基礎編』
成績評価の基準および方法	中間テスト35% + 期末テスト45% + まとめテスト20%
留意点	2課ごとのまとめテストの読解50点満点10回分を20%換算して総合成績に加味する

話し方 授業シラバス	
クラスの目標	1) 簡単な内容について意見を言ったり、質問したりできる。 2) 例を挙げて、相手にわかりやすく説明できる。 3) 構成を考えてまとまったスピーチができる。
スケジュール	1) 自己紹介 2) もう少し詳しい自己紹介＋他者紹介 3) 会話文型・表現1「願望・希望」 4) 自分の国紹介(文化の授業と連携) 5) PPTを使った自分の国紹介 6) 会話文型・表現2「依頼」 7) 意見スピーチとは何か 8) 意見スピーチ練習 9) 会話文型・表現3「誘う・受ける・断る」 10) スピーチコンテスト練習 11) スピーチコンテスト予選 12) 会話文型・表現4「申し出る・感謝する」 13) グラフ解説の練習 14) 会話文型・表現5「提案・助言する」 15) 定期試験準備
方法と種類	1) スピーチ 2) ロールプレイ 3) 日本人学生との対話
教材	『ニューアプローチ中級日本語基礎編』
成績評価の基準および方法	話し方: 平常点40%＋定期試験40%＋スピーチ10%＋文化10% 評価基準: 1) 話す量 2) 内容の質(あいづち、接続詞、語彙・文の正確さ) 3) 流暢さ
留意点	会話クラスには毎回日本人学生が1グループに1名ずつ授業支援で参加する。

聴解 授業シラバス	
クラス目標	1) 身近な話題についての話・会話が聞き取れ、内容が理解できる。 2) 基本的な漢字語彙の入ったニュースなどの独話が聞き取れ、内容が理解できる。 3) 聞きながらメモをとることができる。
スケジュール	1) 第1課「もしもし」 2) 第2課「旗のデザイン」 3) 第3課「海からの便り」 4) 第4課「カラスのカー子ちゃん」 5) 第5課「たためるピアノ」 6) 第6課「日本人と果物」 7) 第7課「待つ時間・待たせる時間」 8) 第8課「震度3」 9) 第9課「世界の人口」 10) 第10課「牛丼の作り方」 11) 第11課「ドライアイ」 12) 第12課「日本の地方都市」 13) 第13課「横断歩道」 14) 第14課「弁当の日」 15) 第15課「コンビニ図書館」
方法と種類	1) 音読 2) 聴解練習 3) ディクテーション
教材	『新毎日の聞き取り50日』・『ニューアプローチ日本語中級基礎編』
成績評価の基準および方法	中間テスト35%＋期末テスト45%＋まとめテスト20% ディクテーション、内容選択、○×選択
留意点	『ニューアプローチ日本語中級基礎編』の聴解ミニテストはLLの時間以外に授業中に実施することもある

漢字 授業シラバス	
クラスの目標	1) N3～N2レベルの漢字を見て、意味が分かる。 2) 学習した漢字語彙が読める。
スケジュール	毎日漢字テストを実施し、漢字語彙の定着を図る。1回の試験範囲は50語。 毎回カタカナ語のディクテーションテストも併せておこなう。 書くテストに関してはLLの時間にパソコンを使って実施する。
方法と種類	1) 漢字語彙の読みテスト 2) カタカナ語彙のディクテーションテスト 3) パソコンによる漢字語彙を選ぶテスト 4) 2課ごとのまとめのテスト
教材	『ニューアプローチ中級日本語基礎編』に出てくるN4レベルの漢字をのぞくすべての漢字語彙をリストアップした自作教材
成績評価の基準および方法	中間テスト35%＋定期試験45%＋課毎テスト20%
留意点	漢字語彙の読みを定着させるために、毎日の漢字テストは読み方のみを実施する。

2014年度 春学期 日本語別科 6クラス シラバス

クラス名	6クラス (Level 6 初中級)
クラスの目標	(1)日本語能力試験でN4後半～N3前半レベルの日本語力をつける。 (2)OPIでは中級一中の日本語力をつける。 (3)日本語で自分のこと・自分の考えが伝えられるようになる。
学習する文型項目・語彙・漢字数	文型項目: 121 語彙 : 1000 漢字 : 239

作文 授業シラバス	
クラスの目標	1)構成を考えたまとまりのある文章が書ける。
スケジュール	1) 自己紹介文 2) 自分の国の説明文(文化の授業と連携) 3) 私の国の有名な観光地 4) 私の失敗 5) 将来の夢 6) 私の国と外国で違うこと 7) うれしかったこと 8) 日本に来て驚いたこと 9) お勧めのお土産(文化の授業と連携) 10) 手紙文 11) メール文 12) 意見文1 13) 意見文2 14) 総合練習 15) 定期試験準備
方法と種類	1)説明文 2)意見文 3)手紙文
教材	自作教材・『できる日本語 初中級』
成績評価の基準および方法	中間試験(30%)＋定期試験(40%)＋平常点(20%)＋文化(10%) 評価基準: 1)段落構成ができている。 2)習った語彙、表現が使える。
留意点	文化の授業で実施した内容の報告書を作文の評価に含める。

読解 授業シラバス

クラス目標	1) 様々な資料から日本で暮らす上で必要な情報キャッチができるようになる。 2) 日本の文化に関わる内容を読解で理解する。 3) 簡単な速読・多読をおこなうことができる。
スケジュール	1) メニューを読む・N4, N5レベルの読解問題 2) ガイドブックを読む・「てるてる坊主」について読む 3) 掲示板を読む・N4, N5レベルの読解問題 4) 携帯メール文を読む・「おむすびころりん」を読む 5) チラシを読む N4, N5レベルの読解問題 6) 試験の注意書きを読む 「ハチ公」を読む 7) 電車の掲示板を読む・N4, N5レベルの読解問題 8) 遊園地の案内図を読む・「動物園のはじまり」について読む 9) 防災センターのパンフレットを読む・N4, N5レベルの読解問題 10) ツイッターを読む・「かちかち山」を読む 11) インターネットの情報を読む1・N4, N5レベルの読解問題 12) インターネットの情報を読む2・「竹取物語」を読む 13) 薬の説明書を読む・N4, N5レベルの読解問題 14) ポストに投函されたお知らせを読む・「鶴の恩返し」を読む 15) 定期試験準備
方法と種類	1) 精読・速読・多読 2) スキミング・スキヤニング練習 3) ピア活動による読解
教材	『できる日本語準拠 たのしい読みもの』・自作教材
成績評価の基準および方法	中間試験(30%)＋定期試験(50%)＋平常点(20%)
留意点	平常点として、個人読みのN4, N5レベルの問題の進み具合を入れる

話し方 授業シラバス

クラス目標	1) 日本語でコミュニケーションが取れる 2) 自分の意見を日本語で言える 3) ある程度まとまったスピーチができる。
--------------	---

スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自己紹介 2) 自分の国紹介(文化の授業と連携) 3) 公共機関などに電話で問い合わせる 4) 機能会話・依頼と断り 5) 機能会話・謝る 6) 情報交換 7) 意見スピーチとは何か 8) 意見スピーチ練習 9) 敬語を使つての会話練習 10) スピーチコンテスト練習 11) スピーチコンテスト予選 12) アンケート調査のための会話練習 13) グラフ解説の練習 14) 調査発表 15) 定期試験準備
方法と種類	<ol style="list-style-type: none"> 1) スピーチ・発表 2) ロールプレイ 3) 日本人学生との対話
教材	『できる日本語 初中級』
成績評価の基準および方法	<p>話し方: 中間試験(30%) + 定期試験(40%) + 平常点(20%) + スピーチ(10%)</p> <p>評価基準:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 話す量 2) 内容の質(あいづち、接続詞、語彙・文の正確さ) 3) 流暢さ
留意点	会話クラスには毎回日本人学生が1グループに1名ずつ授業支援で参加する。

聴解 授業シラバス	
クラスの目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 身近な話題についての話・会話が聞き取れ、内容が理解できる。 2) ディクテーションができる 3) リピーティングができる
スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「もう歩けないよ」「右側? 左側?」 2) 「壊れやすいから気をつけて」「何号車に乗る?」 3) 「大学で何を勉強するつもりですか」「日本の学校」 4) 「ピアノを弾くロボットもあります」「描いてみましょう」 5) 「仕事か結婚か」「大人の歯と子どもの歯」 6) 「忘れてしまったんです」 7) 「歌ったり踊ったりしました」「寿命と体重」 8) 中間試験 9) 「まもなく到着します」「部屋を借りる」 10) 「貸してやらないよ」「新幹線」 11) 「勝ったのはだれですか」「宇宙エレベーター」 12) 「雨が降っても行きますか」「忠犬ハチ公」 13) 「練習すればできますよ」「走る目覚まし時計」 14) 「火事だ! 逃げろ!」「しりとり遊び」 15) 期末試験

方法と種類	1)聴解練習 2)ディクテーション 3)リピーティング
教材	『初級毎日の聞き取り50日(下)』より抜粋・センター作成教材『聞きとりの貯金箱(初級)』
成績評価の基準および方法	中間テスト35%+期末テスト45%+まとめテスト20% ディクテーション、内容選択、○×選択
留意点	ディクテーションは授業内活動の他、宿題とした。

漢字 授業シラバス

クラスの目標	1)N4レベルの漢字が書ける。 2)学習した漢字語彙が読める。3)日常的に使う漢字の意味が分かる。
スケジュール	教科書を用い、毎日20～30分、漢字学習の時間を取った。
方法と種類	1)漢字語彙の読み、書きテスト 4)2課ごとのまとめのテスト
教材	『できる日本語準拠、漢字たまご(初中級)』
成績評価の基準および方法	中間試験(30%)+定期試験(50%)+平常点(20%)
留意点	漢字語彙を、「書けて読める」「読める」「見て理解できる」に分け、定着をはかった。

2014年度 春学期 日本語別科 7クラス シラバス

クラス名	7クラス (Level 7 初中級)
クラスの目標	このクラスの目標は、日常的(にちじょうてき)なコミュニケーションに困(こま)らないような日本語力(にほんごりょく)をつけることです。漢字(かんじ)の目標は、500字ぐらい読めるようになること、300字ぐらい書けるようになることです。
学習する文型項目・語彙・漢字数	文型項目:93、語彙:約1200、漢字:約500

作文 授業シラバス	
クラスの目標	身近な主題について、自分の経験や意見を構成を考えて400字程度書けるようになる。
スケジュール	金曜日3限目の後半を作文の授業にあてた。コース前半は、「自己紹介」「私の国(町)紹介」「週末」などのトピック作文の練習をした。後半は、スピーチコンテストのための原稿作成と意見文の練習を行った。
方法と種類	書くための準備としてプレーストリーミングを全体で行うようにした。また、まとまりのある話を書くために、アウトラインをもとに作文を書くよう指導した。
教材	『やさしい作文』他
成績評価の基準および方法	平常点(課題の提出)30%、中間テスト30%、期末テスト40%
留意点	文化や読解と連動させる部分もあった。

読解 授業シラバス	
クラスの目標	初級レベルの文法語彙の入った読解問題が無理なく読めるようになる。
スケジュール	金曜日3限目の前半を作文の授業にあてる。N4レベルの読解からN3レベルを目指す。短文から中文へと段階をつけて練習する。
方法と種類	時間を決めて個人読みをし、その後グループで読みの確認、全体で語彙表現の確認を行う。
教材	『楽しく読もうⅠ・Ⅱ』『語学留学生のための日本語 フォローアップ問題集Ⅰ・Ⅱ』『パターン別徹底ドリル日本語能力試験N4』他
成績評価の基準および方法	中間テスト40%、期末テスト60%
留意点	文化や作文に関連するトピックを選んで読む。

話し方 授業シラバス	
クラスの目標	身近なトピック会話から、場面に応じた対話ができるようにする。自然なアクセント、イントネーションで文が読めるようにする。
スケジュール	毎週月曜日3時限目に、その時まで学習した教科書の内容に沿って行う。 木曜日1限LLの時間の一部を使って音読練習を行う
方法と種類	ロールプレイ、グループ対話、音読練習(個人で読む練習をしたあと、LL教室の機能を用いて録音、回収し、次の回にFB、必要があれば再録音)
教材	『文化初級日本語』本文、他
成績評価の基準および方法	中間テスト(QAとロールプレイ) 40%、期末テスト(QAとロールプレイ) 60%
留意点	発話しやすい環境を作る

聴解 授業シラバス	
クラスの目標	自然なスピードの日常会話を聞いて、内容が理解できる。
スケジュール	LLの時間(水1、木1)に進度に合わせて教材を適宜ピックアップし、練習を行う。
方法と種類	LL教室で全体で聞いて、答え合わせをする。
教材	『楽しく聞こうⅠⅡ』『わくわく文法リスニング』他

成績評価の基準および方法	中間テスト40%、期末テスト60%
留意点	LL教室では、聴解練習だけでなく、LL教室の機能を利用した会話練習、音読の録音、パソコン入力の練習なども行う。

漢字 授業シラバス	
クラスの目標	日常よく使われる基本的な漢字が書けるようになる。500字程度読めるようになる。書けるようにする漢字のことは255語、読めるようにする漢字のことは278語。
スケジュール	コアの時間内にほぼ毎日小テストを行う。
方法と種類	前もって漢字リストを渡し、書きテスト、読みテストを行う。週に1コマ、漢字語彙の定着を目指しカードを使って読みの復習を行った。またN4レベルの中文の音読練習も行った。
教材	『文化初級日本語』に出てくる漢字のリスト(書けるようにする漢字に☆をつけたもの)
成績評価の基準および方法	中間テスト40%、期末テスト60%(テストは、カタカナ10%を含む)
留意点	

2014年度 春学期 日本語別科 8クラス シラバス

クラス名	8クラス (Level 8 初中級)
クラスの目標	このクラスの目標は、日本語の基礎(きそ)を身につけることです。話(はな)す練習(れんしゅう)、聞(き)く練習(れんしゅう)だけでなく、みじかい文章(ぶんしょう)を読(よ)んだり書(か)いたりする練習(れんしゅう)もします。漢字(かんじ)の目標は、400字ぐらい読めるようになること、300字ぐらい書けるようになることです。
学習する文型項目・語彙・漢字数	文型項目: 67、語彙: 約800、漢字: 約300

作文 授業シラバス	
クラスの目標	400字程度のまとまった文章が書ける。接続詞を使ったり複文にしたりして書ける。段落や序論・本論・結論を意識して書ける。
スケジュール	自己紹介、他者紹介、週末、旅行、(中間試験後)スピーチコンテストの原稿作成、将来の夢(目標)
方法と種類	メモ、アウトライン作成、下書き、清書の順に書かせた。個人作業以外に、ペアやグループになって、書いた作文を読み合ったり、協力して文を作成したりさせた。
教材	『やさしい作文』他
成績評価の基準および方法	平常点30%、中間試験30%、期末試験40% 量、段落、表記(原稿用紙の使い方)、内容について
留意点	「作文ノート」も上記の評価に加える

読解 授業シラバス	
クラスの目標	ある程度まとまった簡単な文章の内容をとらえることができる。質問に対し、過不足なく答えられるようになる。
スケジュール	クラスの進度に合わせて教材を選択し、読んでいく。
方法と種類	プリントで教材を配布し、問題を解く。ペアやグループで答えを話し合ったあと、全体で確認する。
教材	『日本語初級大地』より「使いましょう」、『日本語初級大地基礎問題集』、『みんなの日本語初級で読めるトピック25』
成績評価の基準および方法	中間テスト40%、期末テスト60%
留意点	読んで内容を理解するだけでなく、すらすらと音読するための練習も行う。

話し方 授業シラバス	
クラスの目標	1)学習した文型や語彙を使って身近なことが話せる。 2)機能会話を学習し応用できる。また簡単な対話ができる。 3)まとまった内容が話せる(簡単なスピーチやプレゼンテーション)
スケジュール	4/9 L23 道案内+「私の町」「道案内」 4/16 L24可能形+ジェスチャー 4/25 L25依頼・理由+お願い、食事と健康 4/30 L27「～んです」+病気、インタビュー 5/7 L28 時・伝聞+旅行の思い出、挨拶 5/14 L29決意+住まいを決める 5/21 L30希望;行きたいところ 5/28 L32アドバイス+悩み相談 5/30 中間試験(話すテスト実施) 6/4 L33条件+大学に～をつくらう 6/11 好きな映画・音楽 6月～7月 スピーチ・プレゼンテーション準備 6/18 L35受身+日本の習慣 6/25 L37データ+災害など 7/2 L39「～のに」+トラブル 7/7 スピーチコンテスト 7/9 L40ディベート+意見を言う 7月中旬 プレゼンテーション 7/16 L41物語+ストーリー作り 7/23 テスト準備 7/25定期試験(話すテスト実施)

方法と種類	1)会話練習(発音指導を含む) 2)ロールプレイ・対話練習 3)スピーチ・プレゼンテーション
教材	
成績評価の基準および方法	スピーチ(10%)、プレゼンテーション(20%)、中間テスト(30%)、期末テスト(40%)
留意点	テキスト学習、「話し方」の授業、「文化」の授業で行う。

聴解 授業シラバス	
クラスの目標	1)聞いた内容をリピートしたり、ディクテーションすることができる。 2)相手の話や質問が理解でき、適切に(学習した文型を使って)受け答えができる。 3)短い会話やナレーションの内容について、質問に答えることができる。
スケジュール	1)(毎回)リピートまたはディクテーションをする。 2)メインテキストに従って、関連する聴解活動をする。 3)スピーチの発音練習や、プレゼンテーションの準備をする。
方法と種類	1)メインテキストの会話部分のリピート、ディクテーション、内容確認 2)聴読解の練習 3)スピーチ、話し方の練習のための録音とフィードバック
教材	メインテキスト『大地』、『わくわく文法リスニング』、『初級毎日の聞き取り50日』など
成績評価の基準および方法	中間テスト40%、期末テスト60%
留意点	メインテキストの進捗状況、作文や話し方の授業の内容に留意して聴解の授業をおこなう。

漢字 授業シラバス	
クラスの目標	日常よく使われる基本的な漢字が書けるようになる。500字程度読めるようになる。書けるようにする漢字のことは267語、読めるようにする漢字のことは231語。
スケジュール	コアの時間内にほぼ毎日小テストを行う。
方法と種類	前もって漢字リストを渡し、書きテスト、読みテストを行う。はじめのうちは、書きテストの際に漢字選択リストをつけるが、慣れたらリストなしでテストを行う。クラスで、漢字の導入を行う。
教材	『日本語初級大地2』に出てくる漢字のリスト(書けるようにする漢字に☆をつけたもの)
成績評価の基準および方法	中間テスト40%、期末テスト60%(テストは、カタカナ15%を含む)
留意点	漢字学習の必要性に気づかせるようにする。

』など

2014年度 春学期 日本語別科 9クラス シラバス

クラス名	9クラス (Level 9 初級)
クラスの目標	日本語の基本的な知識を身につけ運用できることを目指します。日本語能力試験のN5程度の文法が正しく使えることを目指します。
学習する文型項目・語彙・漢字数	文型項目: 約80、語彙: 約1000、漢字: 約100

作文 授業シラバス

クラスの目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 習った文型や語彙を使って、1時間程度で辞書がなくても400字程度の文章が書けるようになる。 2) 日本語で書く事を楽しむようになる。
スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1) 4/9 自己紹介文 + α ひらがな(ローマ字) 2) 4/16 他者紹介 絵を使った作文1 ~さんの話 3) 4/23 絵を使った作文1のリライト 物の説明0 4) 4/30 物の説明0のリライト、絵を使った作文2 5) 5/7 絵を使った作文2リライト、説明1 私の国の遊び 6) 5/14 説明1のリライト、説明2 写真について1 7) 5/21 説明2のリライト、説明3 写真について2 8) 5/28 説明3のリライト、感想1 キャンパスオリエンテーリング「絵を使った作文」中間試験の採点基準提示 9) 6/4 中間テスト「絵を使った作文」300字 研修旅行説明 10) 6/11 中間試験のリライト、説明3私の国の服 宿題: 私の国の〇〇と日本の〇〇 (スピーチコンテストの材料探し) 11) 6/18 説明3のリライト、説明4 スピーチコンテストのための原稿作り 12) 6/25 スピーチコンテストのための練習 13) 7/2 説明4 私の国の説明 14) 7/9 スピーチコンテストの感想 15) 7/16 絵を使った作文3 ~さんの話 16) 7/23 絵を使った作文4 ~さんの話
方法と種類	<ol style="list-style-type: none"> 1) 絵を使った作文「~さんの話」 2) 説明文(後半一部意見を含む) 3) 感想文
教材	
成績評価の基準および方法	絵を使った作文「~さんの話」: 中間試験300字、最終試験400字 評価基準: <ol style="list-style-type: none"> 1) 句読点が使える。 2) 接続詞が使える。 3) 理解可能な内容が充分提示できる。
留意点	文化の授業と話し方の授業を作文授業で関連づける。

読解 授業シラバス

クラスの目標	まとまった量の日本語が読め、内容が理解できる。
---------------	-------------------------

スケジュール	1) 4/11 ひらがな文字 2) 4/18 物・人の絵マッチング 3) 4/25 『トピック25』おくにはどちらですか こうべまでいくらですか 4) 5/2 『できる日本語』お店で見つけたおもしろいもの 5) 5/9 『トピック25』お花見しませんか 6) 5/16 ジグソーリーディング 7) 5/23 『できる日本語』ハンバーガーショップ『トピック25』町の生活山の生活 8) 5/30 『トピック25』日本が好きです 9) 6/6 『トピック25』高校生3958人に聞きました 10) 6/13 内容未定 11) 6/20 スピーチコンテスト原稿作り 12) 6/27 スピーチコンテストのスピーチ練習 13) 7/4 スピーチコンテスト(?) 14) 7/11 ブックトーク 15) 7/18 ブックトーク 16) 7/25 N5の練習問題
方法と種類	1) 精読 2) スキミング・スキヤニング練習 3) ピア活動による読解 4) ブックトーク
教材	
成績評価の基準および方法	試験 中間テスト: 300字程度の文を読み、答える。○×問題、マッチング問題、選択問題 定期試験: 400字程度の文を読み、答える。○×問題、記述問題
留意点	

話し方 授業シラバス	
クラスの目標	1) 身近な内容について対話と機能会話ができるようになる。 2) 自分なりに文を作って連文の形で話せる。 3) 質問ができる。
スケジュール	1) 4/8 自己紹介 2) 4/15 もう少し詳しい自己紹介+他者紹介 3) 4/22 デパートで買い物(L3発展) 4) 4/29 日曜日したこと+あいづち 5) 5/13 連休のできごとスピーチ 6) 5/20 誘いと受諾(L8発展) 7) 5/27 中間テスト準備 中間テスト採点基準提示 8) 6/3 話し方中間テスト 9) 6/10 研修旅行についてスピーチ(接続詞導入) 10) 6/17 誘いと断り(L9発展)日本人ビジター 11) 6/24 スピーチコンテストスピーチ練習 12) 7/1 初級スピーチコンテスト 13) 7/8 スピーチコンテスト(?) 14) 7/15 依頼と断り(L15発展) 15) 7/22 定期試験準備 16) 7/29 話し方定期試験
方法と種類	1) 毎回1分スピーチ(最初は30秒くらい) 2) ロールプレイ 3) 対話
教材	教材は教師が配布します。
成績評価の基準および方法	中間テスト: ロールプレイ(誘いと受諾)対話(身の回りのトピック) 定期試験: ロールプレイ(依頼・誘いと断り)対話(身の回りのトピック) 評価基準: 1) 話す量 2) 内容の質(あいづち、接続詞、語彙・文の正確さ)